

『点訳フォーラム』より

【質問1】

ル・モンド紙という言葉がでてきました。「ル・モンド(世界)」意味ですが、フォーラムの語例に「ル■モンド」とでてきたので「ル■モンドシ」分かち書きはわかるのですが、なぜ切るかわかりません。

「Le(ル)」はフランス語の冠詞で英語でいう「The(ザ)」と同じに考えてマスあけすると考えてはみたのですが…。

ル・モンド → ル■モンド
(「ル」は冠詞としての働きが明確)



【回答1】

ル・モンド紙の切れ続きについてはお考えの通りです。「ル」は英語の「the」と同じですし、この場合、定冠詞としての働きが明確ですので区切って書きます。ア・ラ・モードやア・ラ・カルト、カフェ・ラ・テの「ラ」もフランス語の定冠詞ですが、これらは日本語として定着した外来語ですので、一続きに書きます。

【質問2】

フランス語の地名です。長い地名は判断できませんでした。
リスル=シュル=ラ=ソルグ
サン=シル=オー=モン=ドール
2つです。



【回答2】

リスル=シュル=ラ=ソルグは、l'isle sur la Sorgue で、「ソルグ川沿いの町」の意味のようです。リスルが街、sur は～沿いの意味、ラソルグはソルグ川ですので、リスル■シュル■ラソルグと書いてよいと思います。サン=シル=オー=モン=ドールは、saint-cyr au mont d'or で、モンドールは山の名前、そして、au は男性名詞に付く前置詞です。～オーモンドールという街が周囲に数多くあります。saint-cyr は聖シルで人名です。サンシル■オーモンドールと書いてよいと思います。

リスル=シュル=ラ=ソルグ → リスル■シュル■ラソルグ
サン=シル=オー=モン=ドール → サンシル■オーモンドール

【質問3】

ニュー・シネマ・パラダイスの分かち書きは？

てびき 103 ページ 備考 点字で本来一続きに書く語は中点を省略しということで、「ニューシネマ」と続け、「・パラダイス」はてびき 102 ページ(2)②誤読を避けるためや語句の切れ目を明らかにする為に用いられている中点なので、省略し、その部分を一マスあけて書いて「ニューシネマ■パラダイス」でよろしいでしょうか？

『点訳フォーラム』より

【質問】

中点の使い方「1・2・3・4・5・1・2」「月・火・水・木・金」と、「タララータララー」「タラララタララララー」のマスを教えてください。

以下の文の中に出てきます。

何度も考えた末、もしかすると、その原因となっているのがこの、7拍子というリズムにあるのではないかと思ったのです。「1・2・3・4・5・1・2」というリズムが、日常から輝きを奪っている・伊福部昭のゴジラのテーマを思い出してください。あの曲は変拍子で、効果的に5拍子が登場することによって恐怖を与えているのですが、「タララータララー」に続く「タラララタララララー」こそまさに5拍子。「月・火・水・木・金」という平日のリズムに恐ろしさが生じ、日常や勤労に対する喜びを奪っていたのです。

・中点は「1・2・3・4・5・1・2」「月・火・水・木・金」はてびき 102 ページ(2)②で1マスあけでと考えて一マスあけでいいのかなと考えて「1■2■3■4■5■1■2」「月■火■水■木■金」。

・「タララータララー」「タラララタララララー」は歌うときのようなマスアケで「タララー■タララー」「タラララ■タララララー」でいいですか？

【回答】

すべてお考えの通りです。中点の箇所も、「タララータララー」と歌っているとこも、お書きになったマスあけでよいと思います。

中点

「1・2・3・4・5・1・2」「月・火・水・木・金」 → 「1■2■3■4■5■1■2」「月■火■水■木■金」

・『てびき 102 ページ』(2)② より

(2) 点字では用いない中点

上記以外の用途で用いられている墨字の中点は、省略して続けて書く、適切なマスあけに代える、他の記号を用いる、などの工夫をする。

②誤読を避けるためや語句の切れ目を明らかにするために用いられている中点で、点字のマスをあけに置き換えられるものは省略し、その部分を一マスあけて書く。

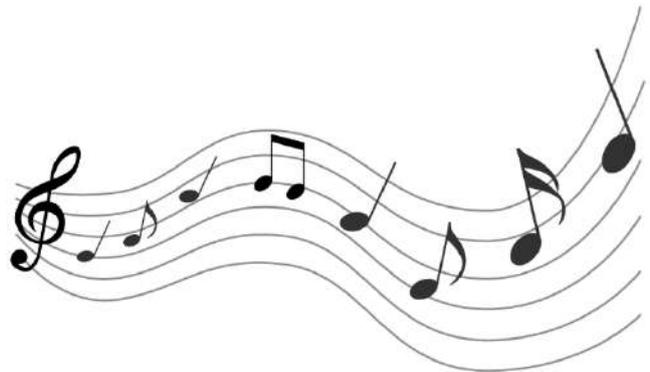
メイド・イン・ジャパン メイド□イン□ジャパン
ミッドナイト・エクスプレス ミッド□ナイト□エクスプレス
ジョージ・ワシントン ジョージ□ワシントン

J・F・K ☺☺☺J □☺☺☺F □☺☺☺K
マザー・テレサ マザー□テレサ
まど・みちお マド□ミチオ
1890・11・1 ☺☺☺1890 □☺☺☺11 □☺☺☺1
東京・高尾山 トーキョー□タカオサン
大阪・道頓堀 オオサカ□ドートンボリ
元・東大教授 モト□トーダイ□キョージュ

現・千葉県 ゲン□チバケン
 地元・札幌 ジモト□サッポロ
 石川准・教授 イシカワ□ジュン□キョージュ
 執筆者・鈴木一雄氏 シッピツシャ□スズキ□カズオ□シ

マaska

- 「タララータララー」→「タララー■タララー」
- 「タララララタララララー」→「タララララ■タララララー」



「ハッピーマンデー」ができて祝日の個性がなくなり、休日の数も変わりましたが、長いこと続いた「1週間が7日」という枠をいよいよ壊す時がきました。役割は終えたのです。情報のスピードも変わりました。これからは、「週5日」新たなリズムで地球も回ります。それが、未来への贈り物。「あの時代の人たちが、リズムを変えてくれたんだね」と感謝されるでしょう。

私がなぜこんなことを考えていたかという点、どうして生きていることは素晴らしいのか、それを実感することが少ないのか、という壁に遭遇したからです。何度も考えた末、もしかすると、その原因となっているのがこの「7拍子」というリズムにあるのではないかと思ったのです。「1・2・3・4・5・1・2」というリズムが、日常から輝きを奪っている。伊福部昭のゴジラのテーマを思い出してください。あの曲は変拍子で、効果的に5拍子が登場することによって恐怖を与えているのですが、「タララータララー」に続く「タラララタララララー」こそまさに5拍子。「月・火・水・木・金」という平日のリズムに恐ろしさが生じ、日常や勤務に対する喜びを奪っていたのです。1・2・3・4・5のリズムが違えば同じメロディーでも違って聞こえます。踊れるものも踊れなくなってしまう。文明やテクノロジーが進化し、我々の暮らしも変化こそすれど、結局、人生を享受できていないのではないのでしょうか。気持ちよく踊れていない。

ならば、リズムを変えるのです。「1・2・3・1・2」のリズムで人生を踊るのです。平日をワルツに。もし実行したら、ほとんどの悩みが解消し、気持ちのいい日常に変えることでしょうか。人生を謳歌できるでしょうか。世界中で生きる喜びのメロディーが響くと信じています。

では、これからひつまぶしを出汁でいただきます。ワルツのリズムでまた明日！

『点訳のて
びき 第3
版 Q&A
第2集』より

Q122 手紙やまえがき、あとがき等で末尾に、行頭から少し下げて書いてある日付等は、何マス目から書いたらよいでしょうか。また、そのとき原文で1行あけて書いてあるとき、点訳でも原文通り、1行あけて書いてよいでしょうか。

第1文を《5マス目から書くのが一般的ですが、7マス目から書くこともできます。》

なお、墨字では視覚的なバランスを考えて、行あけがしてある場合もありますが、点字では、行をあけないで書くのが一般的です。

『本間一夫と日本盲人図書館』より

衷心からの感謝を申しあげます。

2015年 晩夏

.....
.....
.....P.....

元さんのご奉仕に期待して、ご挨拶を終わります。
昭和17年6月10日記す

.....
.....

いたしております。
昭和18年7月 点訳者 鷲淵佐智子

.....
.....
.....

『初めての点訳第3版・指導者マニュアル』より

向けの配慮を加えてあります。

2021年2月20日

【初めての点訳第3版】指導者用マニュアル作成プロジェクト委員会

.....
.....
.....
.....

『点訳フォーラム・点字表記の語例』より 「百」がつく言葉抜粋

五十日百日の祝い	イカ■モモカノ■イワイ	
一罰百戒	数1バツ■ヒヤッカイ	
嘘八百	ウソ■ハツピヤク	
お百度参り	オ数100ド■マイリ	
漢方百薬の長	カンポー■ヒヤクヤクノ■チョー	
疑問百出	ギモン■ヒヤクシュツ	
五十歩百歩	数50ポ■ヒヤツポ	
五百羅漢	数500=ラカン	
四十八茶百鼠	シジューハッチャ■ヒヤクネズミ	江戸時代の色のバリエーション。非常に多くの茶・鼠色のこと
老舗百貨店	シニセ■ヒヤッカテン	
四百四病	シヒヤクシビョー	「人間のかかる病気のすべて」の意
四百余州	シヒヤクヨシュー	「中国全土」のこと
諸子百家	シヨシ■ヒヤッカ	
数百冊	スーヒヤクサツ	
雀百まで踊り忘れず	スズメ■ヒヤクマデ■オドリ■ワスレス	
年百年中	ネンビヤク■ネンジュー	
八百八町	数8ピヤクヤチョー	
八百八橋	数8ピヤクヤバシ	
一金百万円也	ヒトツ■キン■数100マンエンナリ	
百害あって一利無し	ヒヤクガイ■アッテ■数1=リ■ナシ	
百獣の王	ヒヤクジューノ■オー	
百条委員会;100条委員会	数100ジョー■イインカイ	
百戦錬磨	ヒヤクセン■レンマ	
百態	ヒヤクタイ	さまざまな様子
百度参り	数100ド■マイリ	
百日芋	ヒヤクニチイモ	「じゃがいも」のこと
百年忌	数100ネンキ	
百年杉	ヒヤクネンスギ	
百聞は一見に如かず	ヒヤクブンワ■数1ケンニ■シカズ	
百発百中	ヒヤツパツ■ヒヤクチュー	
百万遍念仏	ヒヤクマンベン■ネンブツ	
百も承知	ヒヤクモ■ショーチ	
富嶽百景	フガク■ヒヤツケイ	
文句を言うなんて百年早い	モンクヲ■イウナンテ■ヒヤクネン■ハヤイ	
現場百遍	ゲンバ■ヒヤツペン	
一念五百生	イチネン■数5ヒヤクショー	一念の妄想の報いを五百生にわたって受けるという戒め
天神地祇八百萬神	アマツカミ■クニツカミ■ヤオヨロズノ■カミ	
百の顔を使い分ける	ヒヤクノ■カオヲ■ツカイワケル	

i 脳卒中予防には、食事がとても重要です。食生活のセルフチェックをしてみましょう。
当てはまる項目の□に ✓ を付けてください。3つ以上当てはまる方は注意が必要です。

- 朝食は食べないことが多い
- 夜9時以降によく飲食をする
- 濃い味付けが好みである
- ファストフード、レトルト食品をよく食べる
- 野菜や果物をあまり食べない

Braille representation of the form above, including the list of items and the corresponding checkboxes.

当てはまる項目の□に ✓ を付けてください。

Braille representation of the instruction and the first row of checkboxes.

注意が必要です。⠠⠠⠠⠠各項目のチェック欄は省略。⠠⠠⠠

Braille representation of the warning and the second row of checkboxes.

22.p193 2. マーク類の書き方

行頭にチェックマークを入れる□がついた文の□の書き方について質問です。空欄符号、伏せ文字符号は使えないので簡条書きとして□を省略してよいでしょうか。この1ページ後に「チェックリスト」として同じ文をまとめて書いた表があります。ここの書き方としては、見出しの後に点訳挿入符を使い次のようにしました。「各項目のまえのチェックマークを入れる空欄の省略、便宜上各項目の始めにa.～j.の番号を付けた」というような内容を付記しました。

【A】

前の方は、□を省略して簡条書きにするのがよいと思います。チェックリストの表の方は、お考えのように《○○ページと同じ文が掲載されています。各項目冒頭にチェックを入れる欄があります。》などのように点訳挿入符で説明するとよいと思います。冒頭に記号や番号を補うのが有効な場合もあると思いますが、単にチェックすることだけが想定されている場合は、番号なしの簡条書きでもよいと思います。「○○ページ」には点訳書の該当ページを入れます。点訳でも前のページであれば「ゼンページ」でもよいと思います。

【質問】

固有名詞に使われている数字の扱いについてです。「一の橋」という東京港区にあるとのことですが、ほかに「二の橋」「三の橋」とあるそうです。点訳している本には「一の橋」しかでてきません。点訳のてびき第3版 Q&A 第2集の Q23 で固有名詞の中に使われている数字は仮名で書くことを原則とするので「イチノハシ」と書いていいでしょうか？辞書を調べると「一の橋」が一番目につくられたこともかいてあったので、順序の意味があるとして「数1ノハシ」となるでしょうか？

『点訳のてびき第3版 Q&A 第2集』より

Q23 固有名詞の中に使われている数字の扱いについて教えてください。

第一製薬、七十七銀行、第四銀行、第一勧銀（略称の「一勧」）、六間堀、六間堀町（地名）、十三湖（地名）、十二湖（湖の名前）、二十間川、五本松

固有名詞の中に使われている数字は仮名で書くことを原則とします。ですから、ご質問の会社名や湖の名などに含まれる数字は、「ダイイチ□セイヤク」「シチジューシチ□ギンコー」「ジューサンコ」のようにすべて仮名で書いてよいでしょう。

ただ、「銀行」は、設立の順番など数量や順序の意味があるとして、「㊦㊦㊦□ギンコー」「ダイ㊦㊦㊦□カンギン」などと書く書き方もあります。

【回答】

川にかかる橋の順番を示しますので、数字で書いてよいと思います。

「橋」は2拍でも自立性の高い名詞ですので、区切って書いた方がよいと思います。

数1ノ■ハシ となります。

一の橋 → ㊦㊦㊦㊦㊦㊦

1.p94 1. その他の固有名詞

【Q】
用例で「サッポロ一番」は、数1バンとなっています。固有名詞ですが数字で書く理由をお尋ねします。

サッポロ一番 → ㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦

【A】
商品名の由来を見ても、「一番初めに開発され、一番おいしい」など「一番」という数的な順番の意味合いが強いですし、分かりやすいと思いますので、商品名であっても、数符を使って表した方がよいと判断しました。

【Q】

次のような文章で、視線(指線)の部分の点訳ですが、カッコ内に点訳挿入符を使おうと思うと閉じカッコとの関係で使えないのですが、このような場合はどうしたらよいのでしょうか。

本のページの手触りを意識し、視線(指線)で活字を追いながら、紙上ワークショップをお楽しみください!

【A】

このような場合、シセン(シセン)と書いても、同じ読みの繰り返して、分かりにくいだけですので、シセン点挿ミル■セン、■カッコナイニ■コビノ■セン点挿などのように、同じ読みの語がカッコ内に書かれていることを説明するとよいと思います。

視線(指線)

× シセン(シセン)

○ シセン^{⋮⋮}ミル■セン、■カッコナイニ■コビノ■セン^{⋮⋮}

【Q】

点訳挿入符を使い説明するとカッコが続いてしまう時の対処の仕方を教えてください。
家臣たちからは「お館様(お家形様)」と呼ばれ、
この部分はどの様に点訳すればよいのでしょうか？

【A】

「お館様(お家形様)」の漢字の違いについて、原本でこの前後に言及されていず、単に2種類の書き方を示しただけでしたら、「オヤカタサマ」と書くだけで、(～)は無視してもよいと思います。

もし、漢字で2種類の表現があることを示す必要がある場合は、

1. 「オヤカタサマ((カッコ内に異なる漢字で書いてある))」
2. 「オヤカタサマ((「ヤカタ」は「たて」と、カッコ内に「イエ、カタチ)))」

などの説明をいれてはいかがでしょうか。

お館様(お家形様)

- ・ 原本でこの前後に言及されていず、単に2種類の書き方を示しただけでしたら、「オヤカタサマ」と書くだけで、(～)は無視してもよい

○ オヤカタサマ

○ オヤカタサマ^{⋮⋮}カッコナイニ■コトナル■カンジデ■カイト■アル^{⋮⋮}

○ オヤカタサマ^{⋮⋮}ヤカタ[⋮]ワ■[⋮]タテ[⋮]ト[⋮]■カッコナイニ■[⋮]イエ[⋮]■カタチ^{⋮⋮}

【質問】「悲しい(哀しい)」と本文にあるのですが、どちらも「かなしい」と読むけど点字でどう書く？

【回答】

原本でこの前後に言及されていず、単に2種類の書き方を示しただけでしたら、「カナシイ」と書くだけで、(～)は無視してもよいと思います。

悲しい(哀しい) → カナシイ

【質問】

以下の文章のカッコについて質問です。

1. チーフは僕たちを(僕たちの両親との金銭的取り決めに従って)セントラルパークに連れて行った。
2. 僕たちは季節に(ごく大雑把に)合わせてサッカーか野球をやった。
3. 今朝、あまりの寂しさに、笑い男はひっそり(その足どりは猫のように優雅であった)隠れ家の周りのうっそうたる森に出かけて行った。

※「文章の切れ続きの決まりに従って判断すると、カッコの閉じの後ろに、前から続く助詞や助動詞あるいは句読点などがあればカッコの前後は文として続いていると判断し注釈的説明と考えカッコは続ける。カッコで囲まれた文を省いて読んで文脈が続かなくなる場合は挿入と考える。」とベテランのボランティアさんに教えてもらったのですが、この考え方で考えると、

挿入は1. 2

1. チーフは僕たちを■(僕たちの両親との金銭的取り決めに従って)セントラルパークに連れて行った。
2. 僕たちは季節に■(ごく大雑把に)合わせてサッカーか野球をやった。

注釈的説明は3

3. 笑い男はひっそり(その足どりは猫のように優雅であった)隠れ家の周りのうっそうたる森に出かけて行った。

3. はカッコの閉じの後ろに、前から続く助詞や助動詞あるいは句読点などがなく迷ったのですが、カッコが前の語「ひっそり」にかかっているということで、注釈説明でつづける。あと、てびき 108 ページの参考のどちらか迷う場合も多いので、迷った場合は基本的な用法を選び、前の語に続けるように考えました。

※「ただ、[参考]には、前を区切って書く場合として、『独語と、前の語句の説明ではなく後ろの文脈にかかること』が挙げられています。」

『点訳フォーラム』より

一九二八年、九歳だった僕は、最大限の組織愛を胸に、コマンチ・クラブなる団体に属していた。毎日放課後三時に、僕たち二十五人のコマンチ族を、族長が一〇九丁のナムステルダム・アベニュー付近、公立一六五番校の男子用出口の外まで迎えにきた。僕たちが押しあいへしあいチーフの再改造バスに乗り込むと、チーフは僕たちを(僕たちの両親との金銭的取り決めに従って)セントラルパークへ連れていった。日が暮れるまで、天気が悪くないかぎり、僕たちは季節に(ごく大雑把に)合わせてフットボールかサッカーか野球をやった。雨の日にはいつも、自然史博物館かメトロポリタン美術館にチーフは僕たちを連れていった。

毎土曜日と、祭日の大半、チーフは朝早く僕たちのアパートメントを回って僕たちを拾い、廃車としか見えないバスで僕たちをマンハッタンの外の、都心に較べれば広々としたヴァン・コートラント公園かバリセースに連れ出した。僕たちの頭がひか

けた。ところが、なぜか山賊の一味は彼が自分たちの隠れ家にとどまることを許した。ケシの花びらで作った、薄赤色のボールで顔を覆っているかぎり。ボールのおか

げで山賊たちは羨い子の顔を見ずに済んだし、彼がどこにいるかも把握できた。この

ボールのせいで、笑い男はいつも阿片の匂いをおんおんさせていたのである。

今朝、あまりの寂しさに、笑い男はひっそり(その足どりは猫のように優雅であった)隠れ家の周りの鬱蒼たる森に出かけていった。森で彼はあらゆる種の動物を手な

ずけていた。犬、白マウス、鶯、ライオン、大蛇、狼。動物たちの前ではボールも外

し、動物自身の言葉で優しく、歌うように話しかけた。動物たちは彼を醜いと思わな

かった。

【回答】

ベテランのボランティアさんの説明も、その通りと思いますし、切れ続きの判断もお考えの通りと思います。

3.は、お考えのように前の「ひっそり」の補足説明ですし、カッコの開き閉じの記号を省いて、続けて読むと文脈が不自然になりますので、説明カッコとの判断になると思います。

『点訳のてびき第4版』106-108 ページ

2 ……カッコ類

(1) カッコ類は、原則として注釈的説明の語句を囲む場合に用いる。

第1カッコ(⠠～⠦)を用いることを基本とし、その中にさらにカッコ類が必要であれば、二重カッコ(⠠⠠～⠦⠦)を用いる。これらは墨字の(～)・((～))にほぼ対応している。第1カッコ・二重カッコと区別して他のカッコを必要とする場合に、第2カッコ(⠠⠠～⠦⠦)を用いる。

(2) カッコ類で囲んだ語句や文、記号類とカッコ類の内側は続け、外側は分かち書きの規則に従う。

(3) カッコ類で囲んだ語句や文が、前の語句や文の注釈的説明である場合は前に続けるが、独語や回想、編集上の注意書き、略語などが挿入されていて、明らかに注釈的説明と異なる場合は、前をあける。

(4) 外文字を用いて書かれたアルファベットの後ろと、注釈的説明に用いられているカッコ類とは続けて書き、外国語引用符の閉じ記号とカッコ類の開き記号との間は一マスあける。

少年(16歳)の姿 ショーネン⠠⠠16サイ⠠ノ⠠スガタ

全視情協(全国視覚障害者情報提供施設協会)の大会が開かれた。

ゼンシジョーキョー⠠⠠ゼンコク⠠シカク⠠ショーガイシャ⠠ジョーホー⠠テイキョー⠠シセツ⠠キョーカイ⠠⠠ノ⠠タイカイガ⠠ヒラカレタ⠠

日頃冷静(?)な彼があんなに慌てるなんて

ヒゴロ⠠レイセイ⠠⠠⠠ナ⠠カレガ⠠アンナニ⠠アワテルナンテ

私は(元気を出さなければ)と繰り返しつつやいた。

ワタシワ⠠⠠ゲンキヲ⠠ダサナケレバ⠠ト⠠クリカエシ⠠ツブヤイタ⠠

彼は「今年は(ホームランを)50本打つ」と言っている。

カレワ⠠⠠コトシワ⠠⠠ホームランヲ⠠⠠⠠50ボン⠠ウツ⠠ト⠠イッテ⠠イル⠠

彼は、「品川・川崎・神奈川・保土ヶ谷(中略)石部・草津・大津」と東海道五十三次をすらすらと言った。

カレワ⠠⠠シナガワヲ⠠⠠カワサキヲ⠠⠠カナガワヲ⠠⠠ホドガヤ⠠⠠チューリャク⠠⠠イシベヲ⠠クサツヲ⠠オオツヲ⠠ト⠠トーカイドー⠠⠠53ツギヲ⠠スラスラト⠠イッタ⠠

(社福)全国社会福祉協議会

⠠⠠シャフク⠠⠠ゼンコク⠠シャカイ⠠フクシ⠠キョーギカイ

アサヒビール(株)本社 アサヒ⠠ビール⠠⠠カブ⠠⠠ホンシャ

ML(メーリングリスト)のメンバー

⠠⠠⠠ML⠠⠠メーリング⠠リスト⠠⠠ノ⠠メンバー

Gold(金)の輝き ⠠⠠Gold⠠⠠⠠キン⠠⠠ノ⠠カガヤキ

点字(視覚障害者のための触読文字)[名詞]

テンジ⠠⠠シカク⠠ショーガイシャノ⠠タメノ⠠ショクドク⠠モジ⠠⠠⠠メイシ⠠⠠

参考 カッコ類の基本的な用法は直前の語の注釈的説明ですので、前の語に続けて書きます。この場合は、カッコに囲まれた部分を省略しても文が成り立ちます。「少年の姿」「全視情協の大会」「日頃冷静な彼が」「MLのメンバー」「Goldの輝き」で前後の文脈に不自然な感じはありません。ただ、カッコには、これ以外に、文の途中に、独語や回想、(中略)などの編集上の注意書き、(株)(社福)などの略語等を挿入する用法もあり、その場合は独立した部分としてカッコの前をマスあけて書きます。これらには種々の用法が含まれ、一概にはいえませんが、独語の場合には、その部分を省略すると文脈に齟齬を生じますし、「(ホームランを)50本」のように、前の語の説明ではなく、後ろの文脈にかか

料理も自分で(休み休みですけれど)しましたし、

スーパー(人混みにはまだ無理ですね)に買い物にいったりしてみた。

理学的研究では、一夫一妻制社会では(一夫多妻制社会とは異なり)男性は51歳以上生きる意がないと、かなりピンポイント的な値を算出して結論されているくらいです(やっぱりツライ)。

乳がん、卵巣がん、白血病、肺がん、すい臓がん…、等々(やっぱり多い)。

こうした感染症は(他の身体的疾患も)本書の後半で強調している「普通の生活(食を含む)」で(無意識にも)十分に対応できますから、やっぱり本文を普通に読んでください。

「すっぱい」という語は、「酢」と「はゆい(くすぐったいようなイライラさせられる様子)」とを組み合わせてできた言葉である。

UD(Universal Design)のように、最近は単語の頭文字を使った省略語が多い。

外国の街を歩いていると、occupied(満室)、vacant(空き部屋あり)のサインが出ているホテルを見かけます。

「しばらくしたら(子供たちが)出かけてしまうので、すぐに呼んでみましょうか」と、荷物を抱えた母に私は言った。

あのふわふわ浮かんだ雲に手が届くような気がするよ。(中略)

「自然学者」と呼ばれていた人々(彼らはやがて「智を愛するもの(哲学者)」と呼ばれるようになる)は、世界全体(宇宙)は一体として完結しており、万物について知ろうとするならまずは人間について学ばねばならない、と確信するに至った。

会社での社員採用の際、「即戦力となる人材がほしい」という声を聞くことがある。即戦力となる人材とは、会社にとって有益な価値の資源をすでに持っている人物であることを意味する。しかしたいいていは、そのような人物は、(特に新卒では)見つかりにくく、資源を提供できるように「教育」をする場合が多い。

私(平凡な妻)が、そんな大冒険をするなんて、彼(夫)には、想像もできないことだったらしい。彼は(見知らぬ他人がそこにいる)というめで、私をじっと見つめた。

私は、心の中で(ダメだったか)とつぶやいた。

こんな姿は見せられない(「見せれない」はう抜き言葉である)。

こんなことってあるだろうか。(あるはずがない)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

『点訳フォーラム』より

【質問】

次の文の中の「そうだ」について質問です。

女性たちがよくどんな目にあっているかを考えればなおさらそうだ。台所とリビングをあわただしく行き来して…

「そうだ」を助動詞と考えて前の語と続けて「ナオサラソーダ。」と、「そうだ」を副詞「そう」と考えて、「ナオサラ■ソーダ。」2つの意見が出ています。

「そう」を副詞と考え「ナオサラ■ソーダ。」でいいのではないかと考えますがいかがでしょうか？

【回答】 てびき 60 ページ 「こ・そ・あ・ど」など



ナオサラ■ソーダ

となります。

「なおさら」は副詞ですので、独立して働きます。「なおさらだ」のような助動詞は付きませんが、うしろに、伝聞や推定の助動詞は付かないと思います。

辞書によると、助動詞の「そうだ」は、動詞、形容詞、形容動詞やほとんどの助動詞に付きませんが、副詞に付くという働きはありません。

6 ……「こ・そ・あ・ど」など

副詞「こう・そう・ああ・どう」、連体詞「この・その・あの・どの・ある・わが」なども自立語なので、いずれも後ろの自立語との間を区切って書く。

こう考える【コー□カンガエル】 こうして【コー□シテ】
 そういう【ソー□イウ】 そうしてください【ソー□シテ□クダサイ】
 ああすれば【アア□スレバ】 ああして【アア□シテ】
 どうなるの【ドー□ナルノ】 どういう【ドー□イウ】
 どうして帰りましょう【ドー□シテ□カエリマショー】
 この本【コノ□ホン】 その国【ソノ□クニ】 あの頃【アノ□コロ】
 どの色【ドノ□イロ】 ある時【アル□トキ】 ある日【アル□ヒ】
 わが友【ワガ□トモ】 わが師【ワガ□シ】 あくる朝【アクル□アサ】

・ **副詞**…他の文節を修飾する語。用言を修飾することが多いが、名詞や副詞を修飾することもある。活用のない自立語。

点字では、副詞に動詞の「する」が続くときは1マスあける。

はっきり□させる フラフラ□する

本当に■そうですか。(副詞)

・ **連体詞**…名詞を修飾する語。活用のない自立語。数は少ない。

この その あの どの 大きな 小さな
 例の いわゆる あらゆる ある いかなる
 ばかげた ほんの 単なる とんだ たいした
 たった おかしな わが

〈助動詞の活用〉

種類 (意味)	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
推定 様態	そうだ	そうだる	そうで そうだっ そうに	そうだ	そうな	そうなら	○
	そうです	そうでしょ	そうでし	そうです	(そうです)	○	○
伝聞	そうだ	○	そうで	そうだ	○	○	○
	そうです	○	そうでし	そうです	(そうです)	○	○

雨が降りそうだ(様態)

雨が降るそうだ(伝聞)

『点訳フォーラム』より

【質問】

時代物の小説を点訳しております。その本の中にルビがあります。このルビの処理のやり方で意見が分かれています。

①漢字の読みがわかるものは

てびき 192 ページ(3)ルビが言葉の説明などを示していると考え、

カーテン
・**帳幕** → チョーバク(カーテン)

トップ
・**首座** → シュザ(トップ)

ホステス
・**酌取女** → シャクトリ■オンナ(ホステス)

チョーバク・シュザ・シャクトリ■オンナと元の漢字の読みを書きルビをカッコで囲んで「カーテン・トップ・ホステス」と書き、2回目以降は漢字の読みの方「チョーバク・シュザ・シャクトリ■オンナ」を書く。

もう一つの考えは、2回目以降は外来語である「カーテン・トップ・ホステス」のみルビを書く。

②漢字が当て字になっている？

以下の文章です。

ようやく、^{セックス}床上之歡に目覚めたあれに、教えてやってくれぬか。旅の護身の剣を教えるのならば、わしにもできる。だが、^{セックス}巫山靈雨(のてほどきとなると、わしのように無骨な男の手には負えぬ。どうかな、^{セックス}萬の兄い。養亀の愉悦を深めてやってくれ。

巫山靈雨の読み方を調べると四字熟語で「ブザン■ウンウ」と読みがあるのですが、「床上之歡」、「養亀」は当て字だろうと思いますが？

フォーラムの Q&A を見ていると当て字が頻繁に出てくるようであれば、点訳書凡例を用いてもいいかどうかという回答を見つけました。

この本の場合は、①②にあるものは、点訳書凡例を用いて書き記した方がいいのでしょうか。

漢字が当て字になっている(床上之歡・養亀)のを、点訳書凡例に上げて、漢字の読みがわかるもの(帳幕・首座・巫山靈雨・酌取女)は凡例には上げず、192 ページ(3)ルビが言葉の説明として、文中に書いてもいいのでしょうか？

当て字が頻繁にでてこないようであれば、点訳挿入符をつかって書いたらどうかなと考えてみました。

セックス点挿カンジ4ジデ■トコ■ウエノ■カンキノ■カン点挿二■

セックス点挿カンジ2ジデ■ヨークノ■ヨート■カメ点挿ノ

点訳挿入符を頻繁につかうと読みづらいとは思いますが…、それと、時代物なので「セックス」という外来語は使うのは違和感があるのですが、この部分では外来語を使用するのは仕方がないのかなとあれこれ考えます…。

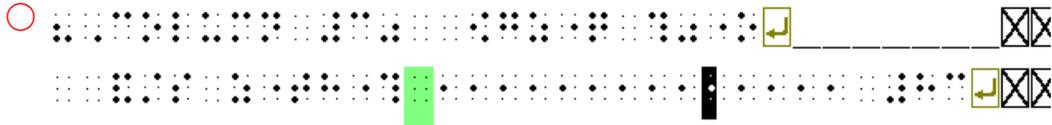
31.p200 4.目次

見出しに点訳挿入符で説明が必要となったものがあり、見出しの次行3マス目から点訳挿入符を入れました。その場合、目次はどのように書くのがよいのでしょうか。

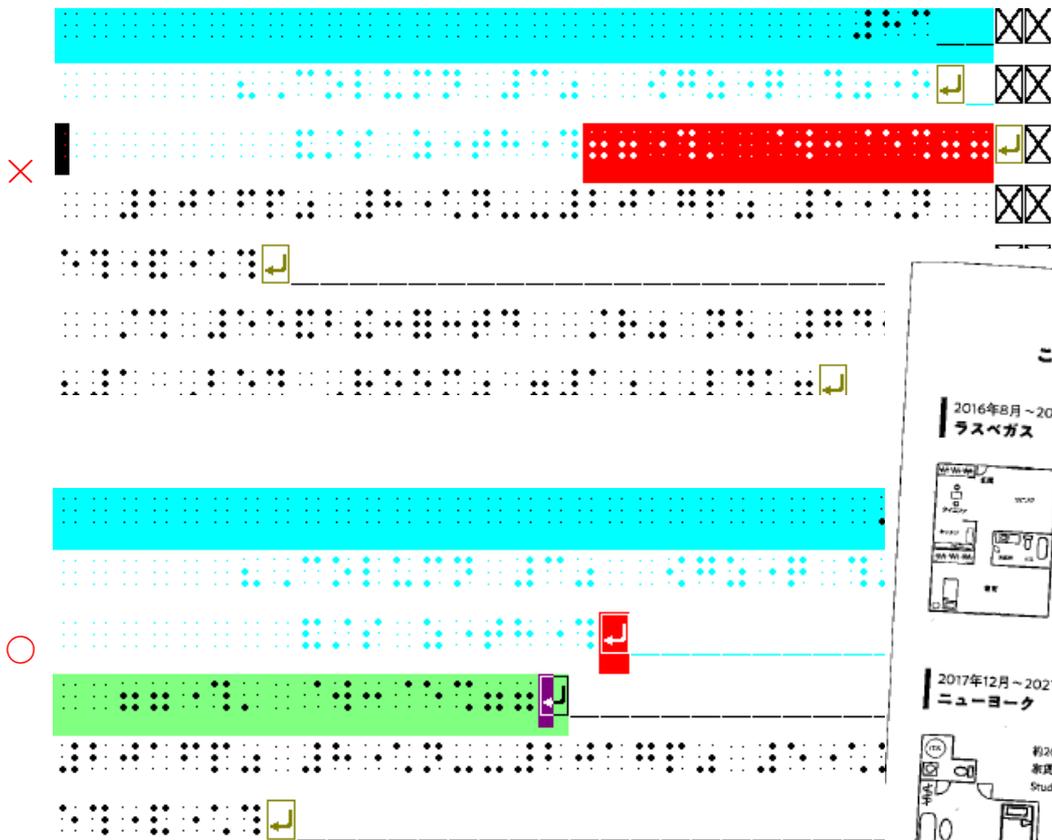
【A】

目次には、5マス目、あるいは7マス目、9マス目から書いた見出しだけを入れます。点訳挿入符の部分は目次には入れません。

(目次)



(本文)



Column3

これまで住んだ部屋の間取り図

<p>2016年8月～2017年5月 ラスベガス</p> <p>約55平方メートル 家賃\$740/月 1 Bed Room (1LDK)</p>	<p>2017年5月～2017年12月 ロサンゼルス</p> <p>約8平方メートル 家賃\$550/月 キャンピングカー(準)</p>
<p>2017年12月～2021年8月 ニューヨーク</p> <p>約20平方メートル 家賃\$1,650/月 Studio (1ルーム)</p>	<p>2022年4月～現在 ラスベガス</p> <p>約45平方メートル 家賃\$935/月 Studio (1ルーム)</p>

あいにく写真が残っておりませんでしたので、記憶を辿って間取りを描いてみました。コロナ禍以降の記録的な物価上昇もあり、やや比較が難しいですが、それでもニューヨークの家賃がいかに高いかは一目瞭然でございます。敷金・礼金はなく、水道代込みの家賃であることが日本との大きな違いかと思えます。

78.p111 5.点訳挿入符

見出しに、漢字を説明する点訳挿入符を添えてもよいですか。

【A】

見出しは目次にも掲載しますし、見出しに点訳挿入符で囲んだ説明があると長くなり煩雑になります。見出しのイメージも変わってしまうと思いますので、できるだけ点挿は入れない方がよいと思います。本文を読めば分かる場合は、必要ありませんし、どうしても必要な場合も、見出しが終わった後に行を替えて点挿を入れるなどの工夫をしたらどうでしょうか。

イラストの説明？

『防災のことを考えてみませんか』東京都心身障害者福祉センター作成より
製作日本点字図書館

イラスト1



慣れない場所では、
移動に誘導が必要です



初めてのトイレでは
使い方がわかりません

イラスト2

誘導の基本



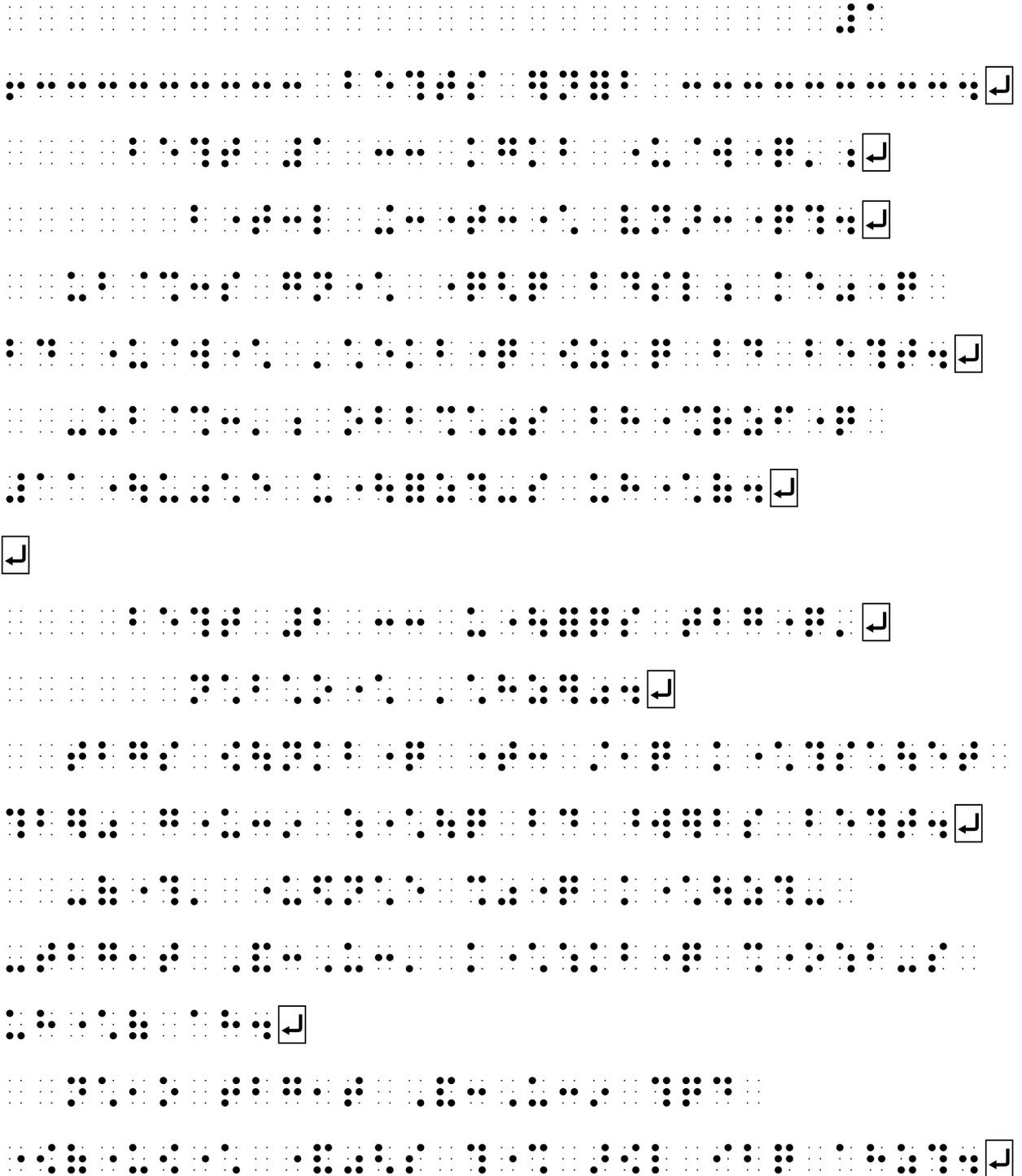
肩や肘などにつかまってもらい、
支援者が半歩前を歩く



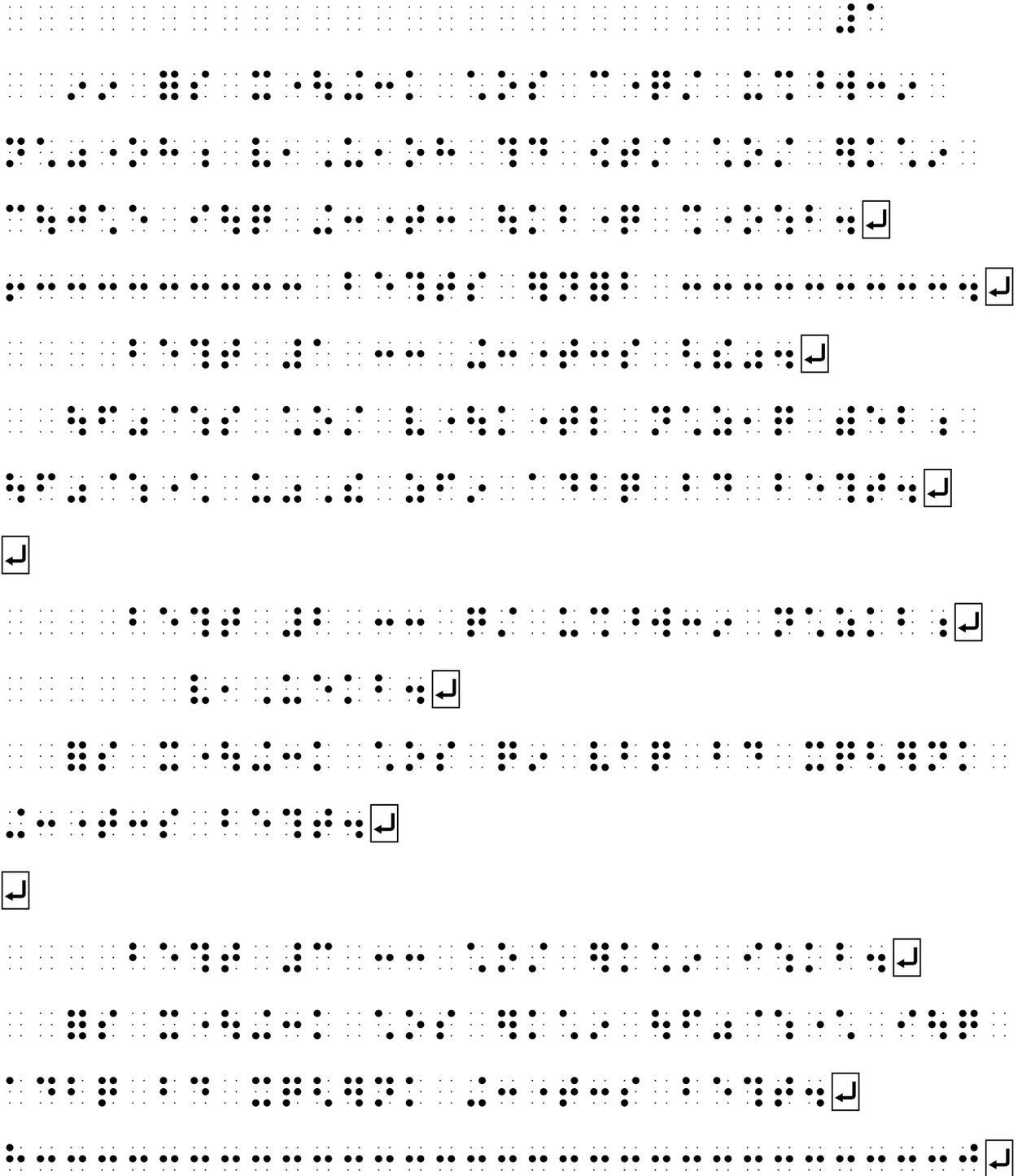
手や白杖をつかまない、
引っ張らない



肩や背中を押さない







『点訳フォーラム』より

【質問1】

『紫式部と藤原道長』(倉本一宏著)の中に位や役職名が数多く出てきます。

①備中権守、②右兵衛権佐、③右衛門権佐、④太宰権帥、⑤令外官、⑥近衛将、⑦越後弁の切れ続きを教えてください。

語例集に「権の守」「右衛門佐」「太宰の■権の■帥」「令外官 リョーゲノ■カン」「越後弁殿」などの語例はありますが、「権、守、佐、帥、官、将、弁」は同じ漢字 1文字です。違いをどのように考えればいいのでしょうか。

【質問2】

「大納言の君、宰相の君、宣旨の君、中將の君」は点訳フォーラムのQ&Aの解説の通り、「ダイナゴンノ■キミ、サイショーノ■キミ、センジノ■キミ、チュージョーノ■キミ」に君のまえで区切って書いていいのでしょうか？大納言・宰相・宣旨は人名ではないのですが。

【回答1】

平安時代の役人の官位(四等官)は、かみ(頭、督、守)、すけ(助、佐、介)、じょう(允、尉、掾)、さかん(属、志、目)で表しますので、一般に官位としては前を区切って書いてよいと思いますが、ただ、役職名と合わせて略して呼ばれることも多く、規則として表すのは、むずかしいところです。

①備中権守、②右兵衛権佐、③右衛門権佐、④太宰権帥の「権」は臨時の官職で「仮に置かれた」というような意味ですので、ゴンノカミ、ゴンノスケと続けて書いてよいと思います。②右兵衛権佐は右兵衛府という役所の権佐、③右衛門権佐は、右衛門府という役所の権佐ということになります。④「太宰権帥」は、帥(そつ、そち)が太宰府だけの長官名で、太宰府の臨時の長官という意味ですので、ダザイノ■ゴンノ■ソツとなります。

⑤令外官は、正式に定められた以外の官職すべてをまとめてあらわし、具体的な官位・官職を示しているわけではありません。大宝令、養老令の外の官職・役所のことですので、リョーゲノ■カンとなります。

⑥近衛将は、近衛府の将(大将か中将)ですので、コノエノ■ショーとなります。

⑦越後弁は、大弐三位(紫式部の娘)を指す通称ですので、続けて書きます。「弁」は、近衛府の事務を司る役所・事務官をさしますので「頭の弁」などは続けて書いてよいと思います。

ご質問の文のなかで、1箇所、ウエモンノ■ゴンノ■スケとなっていたましたが、ゴンノスケです。語例集の右衛門佐(うえもんのすけ)は、右衛門佐局といわれた大奥の女中を指し、官位官職とは直接関係ありません。

そのほかは書かれていたマスあけでよいと思います。

- ①備中権守→「ビツチューノ■ゴンノカミ」
- ②右兵衛権佐→「ウヒョーエノ■ゴンノスケ」
- ③右衛門権佐→「ウエモンノ■ゴンノスケ」
- ④太宰権帥→「ダザイノ■ゴンノ■ソツ」
- ⑤令外官→「リョーゲノ■カン」
- ⑥近衛将 →「コノエノショー」
- ⑦越後弁→「エチゴノベン」

【回答2】

「君(きみ)」に関しては、Q&Aの通りで、「ダイナゴンノ■キミ、サイショーノ■キミ、センジノ■キミ、チュージョーノ■キミ」と書いてよいと思います。

大納言の君→「ダイナゴンノ■キミ」

宰相の君→「サイショーノ■キミ」

宣旨の君、→「センジノ■キミ」

中將の君→「チュージョーノ■キミ」

— 参考:『点訳フォーラム』より —

8.p88 2.敬称・官位など

源氏物語をテーマにした読み物で、紫式部・越後弁・中將の君・小式部・明石の上などが登場します。これらに「さん、様」が付いたときの切れ続きはどうなりますか。

「紫の上」は「ムラサキノウエ」と続けてありますが、「紫の君」・「若紫の君」は「紫の上」と同じ考えでよろしいでしょうか。そして、「明石の君」との違いはどのように考えたらよいでしょうか。

【A】

ムラサキ■シキブ、エチゴノベン、チュージョーノ■キミ、コシキブ、アカシノウエとなり、式部、弁、君、上などは、立場や役職などを示す普通名詞になりますので、「さん、様、」などは続けて書きます。「てびき」p90【備考1】に当てはまります。

越後弁殿(エチゴノベンドノ)、明石の君(アカシノ■キミ)、葵の上(アオイノウエ)などが、「点訳フォーラム」の「点字表記の語例」にありますので、参考になさってください。

「君(きみ)」、「上(うえ)」は、どちらも敬意を込めた言い方ですが、この場合は、語としての自立性が異なります。「君」は、人名や役職名に付く尊敬語で、具体的な意味を持つ名詞ですので、「君」の前で区切って書きます。「上」「方」などは、方向を示す言葉を用いて間接的に「夫人」「奥方」を示す使い方です。この場合の「上」「方」は接尾語的で、「～の上」「～方」までを含めて1語になっていますので、助詞の「の」も含めて一続きに書きます。

15 脳卒中予防には、食事がとても重要です。食生活のセルフチェックをしてみましょう。
当てはまる項目の□に ✓ を付けてください。3つ以上当てはまる方は注意が必要です。

- 朝食は食べないことが多い
- 夜9時以降によく飲食をする
- 濃い味付けが好みである
- ファストフード、レトルト食品をよく食べる
- 野菜や果物をあまり食べない

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

7.p166 2.短歌・俳句・川柳など

文中に短歌や俳句を引用する場合、原文に行あけがなくても本文との間を行あけしたほうがよいのでしょうか？ 書き出し位置は下げたほうがよいのでしょうか？

【A】

句集や歌集では3マス目から書きますが、文中に引用されている場合は5マス目から書くことも多く、この場合も前後を行あけしたほうがよいと思います。3マス目から書き出す場合は、必ず前後の行あけが必要です。活字書では行あけがなくても短歌や俳句が挿入されていることが一見して分かりやすいのですが、点字では分かりにくいので、このような配慮が必要です。

8.p166 2.短歌・俳句・川柳など

短歌や俳句のマスあけについて、5・7・5・7・7 の区切り目はすべて一マスあけとなるのでしょうか。文中に文の終わりと解釈できる箇所(倒置法での表現と思える場合などですが)があっても2マスあけることはないと理解すればいいのでしょうか。

詩の場合、1行中に文の終わりがある時(句点はない)は2マスあけていたのですが、短歌や俳句も同様の扱いと理解していました。短歌や俳句と詩の扱いは違うということでしょうか。短歌・俳句・川柳・冠句は短詩形ゆえに文の終わりと解釈できても2マスあける必要性がないと考えるのでしょうか。基本とする考え方をご教示ください。

【A】

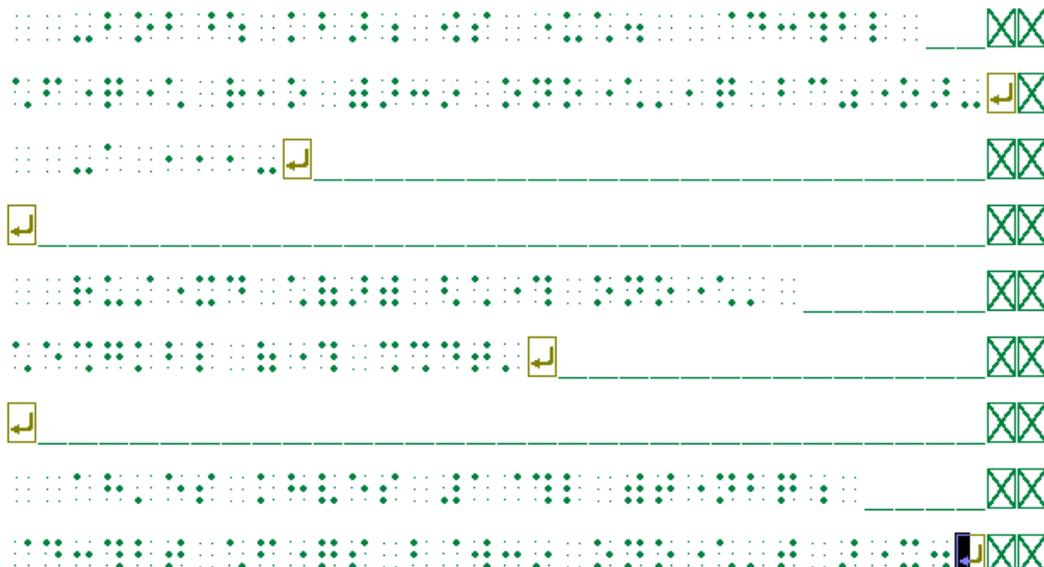
詩・短歌・俳句の書き方を示している第5章その3では、書き始めの位置や行替えについて提示しているだけです。マスあけについては、第3章、第5章の「その1」のルールに準じて書くこととなります。

その意味では、短歌や俳句だから、二マスあけは絶対はないとは言いきれません。

しかし、現在は、点字で読点を使用しなかった時代とは異なり、提示された主題の後ろ、倒置法の区切り目、感動や呼びかけを表す独立語の後ろなどでは二マスあけをしていませんので、俳句や短歌のなかで二マスあけを考えることはほとんどないと思います。「てびき」の例のなかでも例1、例2、例4、例5、例6などは、主題の提示や倒置法などと考えると二マスあけかどうか悩んでしまいます。

加えて、短歌や俳句はとくに韻律が重視されますので、二マスあけを入れることで流れが止まる感じになることを避ける意味合いもあるように思います。

破調の句や歌で明らかに二つの文からできている場合などを除き、俳句や短歌では基本的に一マスあけと考えてよいのではないのでしょうか。



「あ……」
 ちはやぶる神代もきかず龍田川 かくれなみに水くるとは
 在原業平の一首に基づいて、流水と楓の意匠を龍田川と呼ぶ。
 縫箔屋の娘としても、百人一首の名歌としても覚えはある。ただ
 ばなかったただ。浮かばなかったただだけれど、恥ずかしい。一
 女だと思われたかもしれない。
 ……、羞恥の念の方が疼く。

『点訳フォーラム』より

21.p155 2.見出しの段階を示す文字や数字

見出しが<~>で囲まれて書かれています。見出しの<~>をはずして点訳するというような説明を見た記憶があります。原本に<~>を使って書かれているならば原本通り点訳してよいでしょうか。また、この時は第2カギでいいでしょうか。

1.<基本的な問い方>

•言葉の意味を明確にする

〇〇とは何か？

2.どんな疑問がありうるか、例を出しておこう。

<子供>

どうして好き嫌いしちゃダメなの？学校に行きたくない時～（以下略）

<中高生・大学生>

将来なにしたらいい？なんで働かなきゃいけないの？～（以下略）

<社会人>

どうして～（以下略）

1.は5マス目からの見出しです。また、2.はそれよりも小さい扱いになっています。

【A】

原文で、視覚的な強調の意味で見出しが囲み記号などで囲んであった場合、点訳では行頭のマスあけで見出しであることが分かるので、一般的に省略して書くことをお勧めしています。このQ&Aでも、見出しが【~】で囲まれている例を示しています。

ですから、1.は、<~>を省略して書いてよいと思います。

2.の例ですが、<~>で囲んであっても、すぐに、第2カギを用いるとは考えずに、5マス目からの見出しの下の見出しですので、第1小見出し符を用いることも考えられると思います。

第2カギを用いて間違いであると強くいうことはできませんが、小さい見出しにカギ類を用いることは、あまりしませんし、かといって、【備考】などとは性質が異なるので、この場合はカッコ類も適当ではないと思います。第1小見出し符がよいのではないかと考えます。

『点訳のてびき』より 【備考】 → 小さな見出しを囲むカッコの例になります。

備考 数が重なる部分が「十」「百」の位の場合に、それより上の位があれば位を仮名で書き、位ごとに区切る。

二百五、六十 [2 ヒャク 5 6 0]

四千五、六百 [4 セン 5 6 0 0]

千百二、三十 [セン ヒャク 2 3 0]

五万三千七、八百 [5 マン 3 ゼン 7 8 0 0]



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

47.p158 5.書き流しの見出し

小見出し符の使い方についての質問です。

5マス目からの見出しの中に、番号がふってなくて、注意事項が箇条になっているところがあります。

短期断水の場合

節水で対応

節水しての洗面…

代用品での対応

紙皿、ウエットティッシュ、…

断水エリア外へ移動

「節水で対応」「代替品での対応」「断水エリア外へ移動」に小見出し符を使ったのですが、「断水エリア外へ移動」は、小見出し符の後に何もないので、そのままいいのでしょうか。

【A】

小見出し符は、見出しに付けるものですから、小見出し符で終わりと言うことはありません。

この場合は、何か工夫しなければなりません。

例えば、小見出し符の後の文が、全て1文であったり、1段落の短い内容でしたら、小見出し符を使わないで、棒線を用いる方法もあります。

■■■■短期断水の場合

■■節水で対応■∴∴■節水しての洗面…

■■代用品での対応■∴∴■紙皿、ウエットティッシュ、…

■■断水エリア外へ移動

または、項目が少ない場合は項目に星印を付ける、または、項目が多い場合は、断わって番号を付けることも考えられます。そうすると最後の項目に小見出し符を付けなくても同格の項目であることが分かります。

■■■■短期断水の場合

■■∴∴■節水で対応∴∴■節水しての洗面…

■■∴∴■代用品での対応∴∴■紙皿、ウエットティッシュ、…

■■∴∴■断水エリア外へ移動

または、

■■■■短期断水の場合

∴∴ゲンブニワ■ナイガ■バンゴーヲ■フシタ∴∴

■■a. ■節水で対応∴∴■節水しての洗面…

■■b. ■代用品での対応∴∴■紙皿、ウエットティッシュ、…

■■c. ■断水エリア外へ移動

番号は、a.b.c. でもア.イ.ウ. でも構いません。

グラフ 2-3 10 万人あたりの骨折件数 (点訳例 2 種類)

- (1) グラフから読み取った概数であることを明記する。
- (2) 点訳例1は略称を書き流しにしている。点訳例2は、原本が折れ線グラフであることを書き(これは教科書等の点訳の場合)、略称を1行に1つずつ書いている。
- (3) このグラフから数値を正確に読み取るのはかなり困難。このような場合、グラフから読み取れる傾向を簡単に文章で説明しても良いし、あるいは、本文に同じような説明がある場合には、省略しても良い。

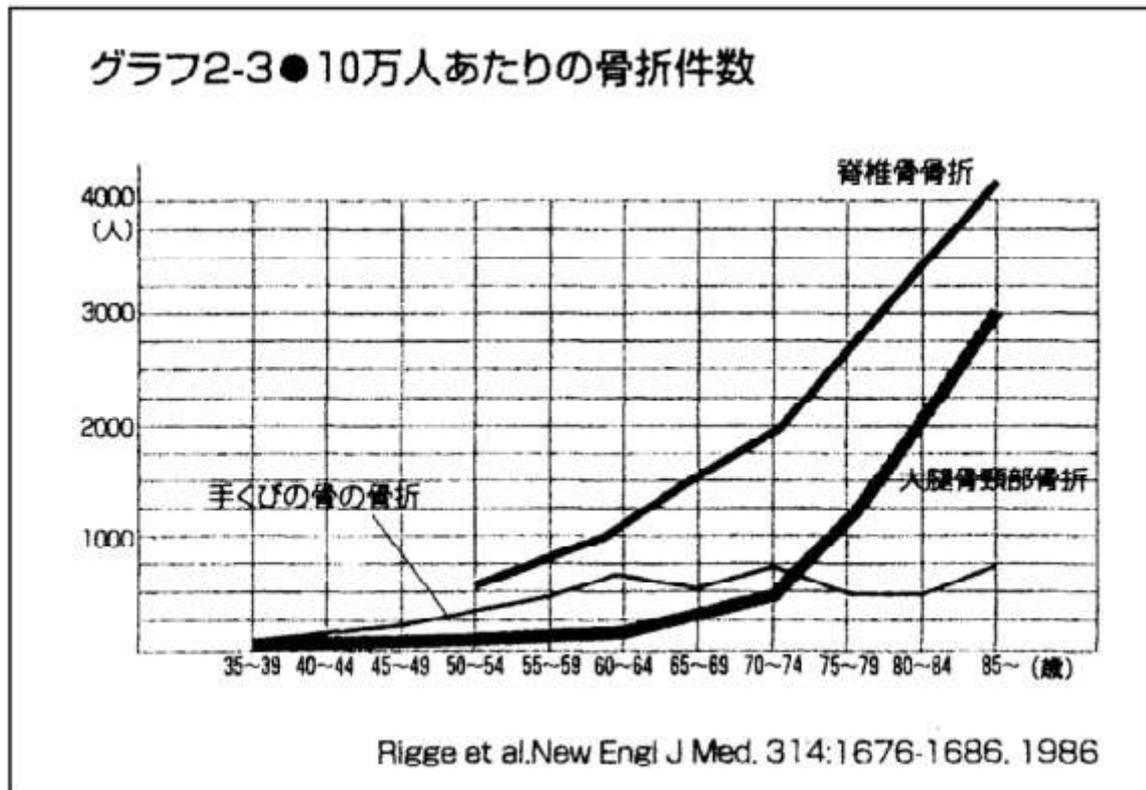
* 文章による説明の例

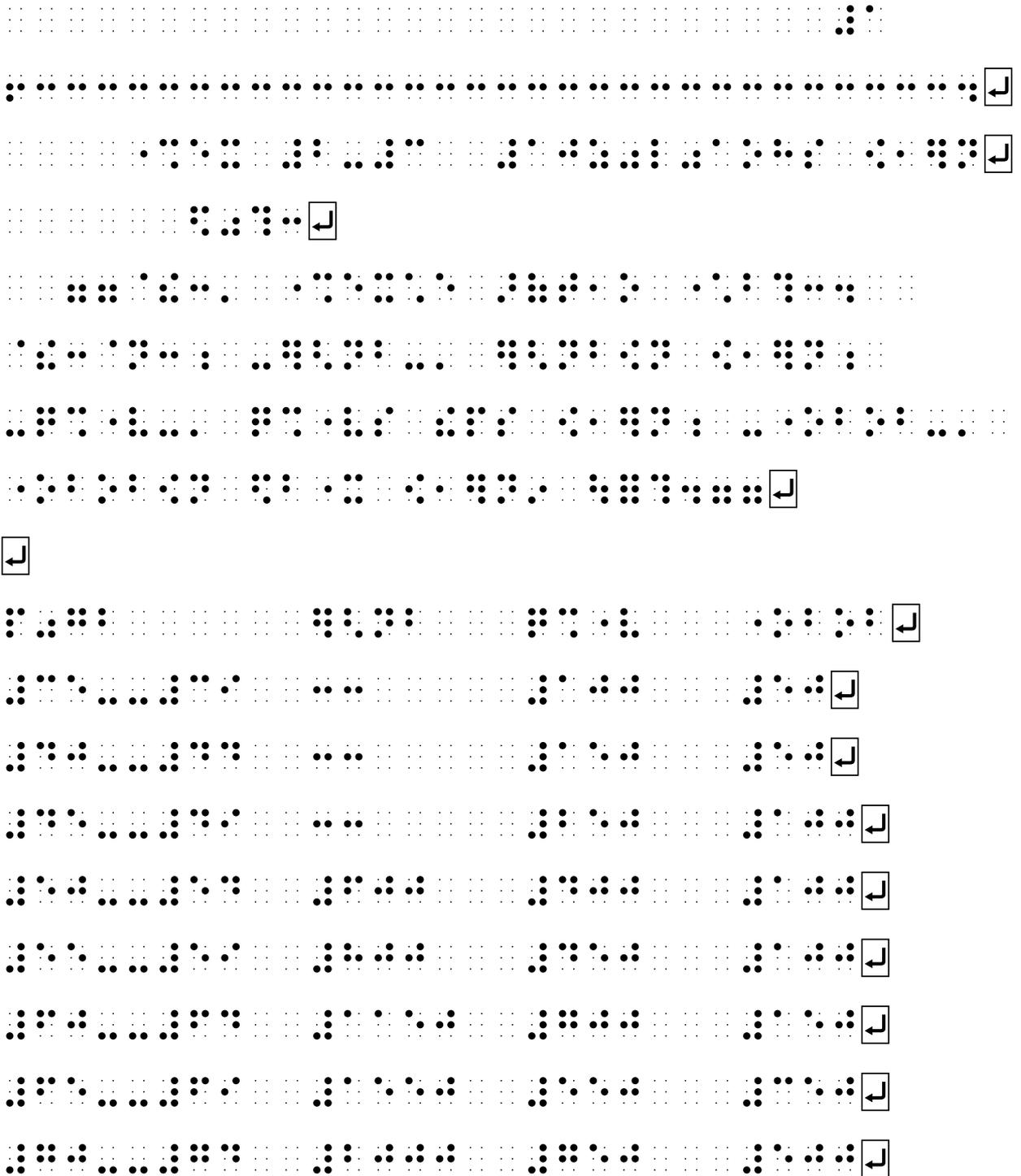
グラフ 2-3 10 万人あたりの骨折件数

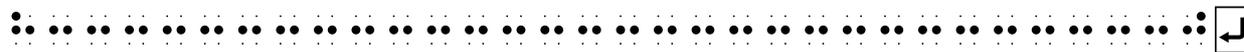
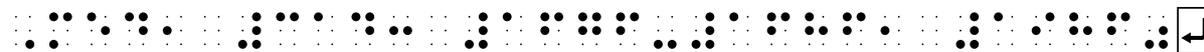
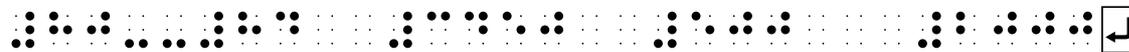
年齢とともに、「脊椎骨骨折」「手首の骨の骨折」「大腿骨頸部骨折」の件数がどのように変化するかを表わしたグラフ。

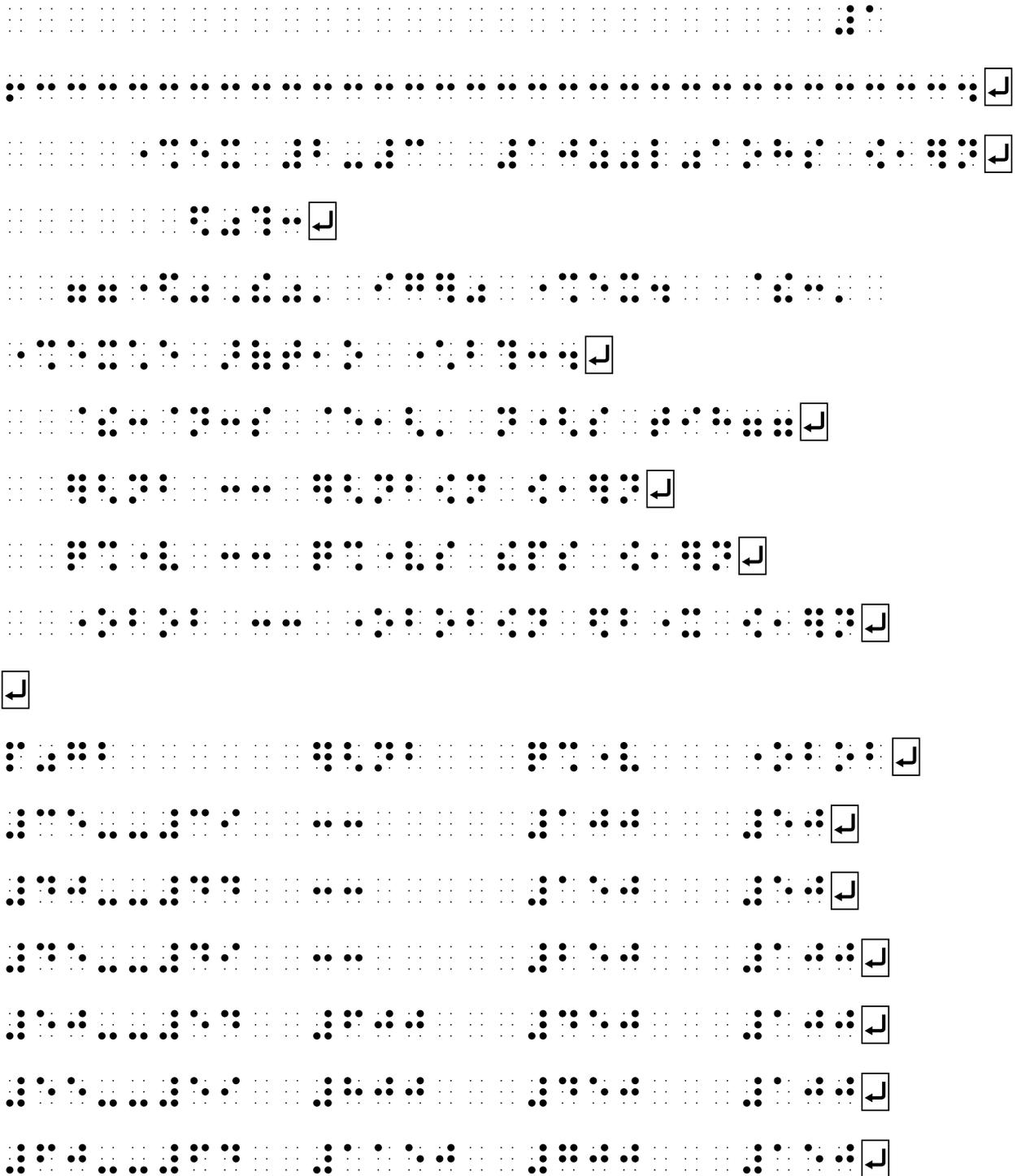
いずれも年齢とともに増加傾向にある。

「脊椎骨骨折」は 60 歳以降とくに急激に増加(70 歳で2千件くらい)。「手首の骨の骨折」は 50 歳以降 500~700 件くらい。「大腿骨頸部骨折」は 75 歳以降とくに急激に増加(80 歳で2千件くらい)。









.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

『音訳事例集—図版の読み方編』より

¥1,650 遠藤美枝子・著

B5判・120 ページ(読書工房)

2024年9月25日初版発行



【音訳見本例】

XXページ図6.1現代社会の社会福祉の諸問題

説明

直角に交わるたて軸とよこ軸によって4つの領域ができます。

たて軸の方がやや長く、上のはしに「社会的排除や摩擦」と書かれています。

下のはしに「社会的孤立や孤独(個別的沈殿)」とあります。

たて軸を上下2:3にわける位の位置によこ軸。よこ軸は右のはしに「貧困」、左のはしに「心身の障害・不安」とあります。よこ軸は右の部分「貧困」の方が少し長くなっています。

この座標軸によってできる4つの領域の中に、よこ長のだ円ワクが6つ、よこ長の長方形のワクが5つおかれています。ワクの中に様々な問題が言葉で書かれています。

たて軸にそって上から読んでいきます。たて軸上方「社会的排除や摩擦」のすぐ下にタテに並び3つの楕円。3つとも「貧困」の方に大きく張り出していますが、たて軸をまたいで左の領域「心身の障害・不安」にも、少しかかっています。上から1つ目「路上死」、2つ目「ホームレス問題」、3つ目「外国人・残留孤児等の問題」です。

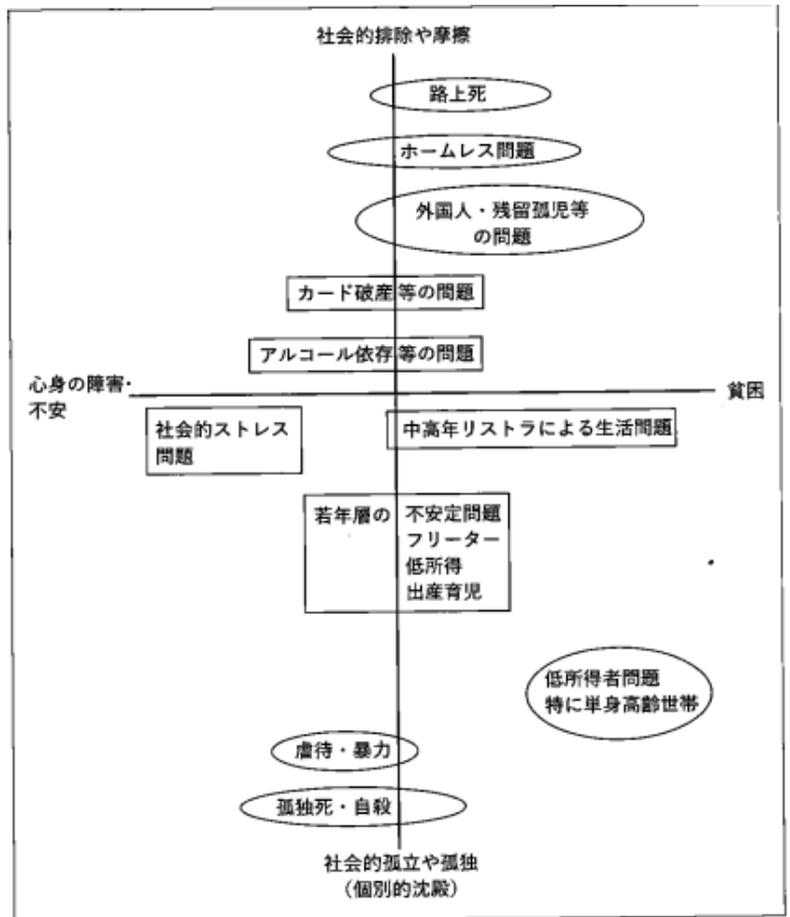
たて軸を下にあり、よこ軸近くに2つの長方形のワク。2つのワクとも、たて軸をまたいで左の領域に半分以上かかっています。上のワクが「カード破産等の問題」下のワクが「アルコール依存等の問題」です。

よこ軸をこえて下へ。すぐ下に長方形のワク。右の領域、貧困の方に大きく張り出していますが、ほんの少したて軸をまたいで、左領域にかかっています。「中高年リストラによる生活問題」とあります。

同じくよこ軸のすぐ下、よこ軸左はし近くに長方形ワクで「社会的ストレス問題」。たて軸を少し下へさがり、たて軸をまたぐ形で大きめの長方形ワク。「若年層の不安定問題、フリーター、低所得、出産育児」とあります。さらにたて軸を少しさがり、右の領域のたて軸から離れた所に大きいだ円ワク。「低所得者問題 特に単身高齢世帯」と書かれています。

たて軸にもどり、下の端近くに2つの楕円ワク。2つのワクとも、左の領域「心身の障害・不安」の方に大きく張り出していますが、たて軸をまたいで右の領域「貧困」にも少しかかっています。上のワクに「虐待・暴力」。下のワクに「孤独死・自殺」となっています。

説明おわり。



『点訳フォーラム』より回答

【質問】

小説特『刀剣乱舞－花丸－』 月ノ巻 猫田幸著の中に「行く先」という語3か所できます。校正で「行く先」は「ユクサキ」と点字フォーラム語例集とあり、①～③は「ユクサキ」と校正があがってきました。どのように考えればよいでしょうか。①は「イク■サキ」と考えられないでしょうか。「行く■先々」のように「行く」が動詞として働いている場合は「イク■サキ」とはならないでしょうか。

- ① そんな一匹と一振りの行く先に、甘酒を片手に酔っ払っている不動行光がいた。
- ② 滑車の取っ手に手をかけ、自身の行く先を鋭い眼光でとらえる。「いくぞ！」言葉と同時に走り出した…
- ③ つり橋の行く先にある洞窟から出てきた一期一振だ。

【回答】 ①②③「ユクサキ」

この①～③ともに「行き先、目的地、目当ての場所」と言い換えても不自然ではないので、続けて書く方がよいと思います。「行く先」は元々「行く」という動詞と「先」という名詞からできている複合語ですので、動詞「行く」の意味も内包しているため、「行く」の意味が強いかどうか、という考え方で判断しようとする人と人によって捉え方にばらつきが出ると思います。またご意見として、不動が立っている方へ向かっていったわけではなく、走っていったら不動がいたという内容なので、目的地の意味に合わないとありますが、目的地にたまたまその人がいたというだけですので、「行く先」の解釈に不都合を生じる理由にはならないと思います。「行く先」のような語の解釈を広げていくと、点訳に揺れが生じたり、人によって判断が異なったりしてきます。点訳フォーラムとしては、ご質問の場合は、すべて「ユクサキ」と続けた方がよいとお答えします。

『指導者ハンドブック 第2章』より

「行く」は「いく」？「ゆく」？

「学校に行く」は「いく」でしょうか？「ゆく」でしょうか？

また問題用例にある「行きかう」は「いきかう」でしょうか？「ゆきかう」でしょうか？

『点訳のてびき入門編』（昭和56年3月20日初版第1刷発行）には、「行く」は口語では「イク」と書く。ただし複合語で「ユク」と発音する場合は「ユク」と書き表すとあり、「行く末」（ユクスエ）「先行き」（サキユキ）の例がありました。第2版、第3版には、この表現はありませんが、基本的な姿勢は変わっていません。

辞典類を見ると、昔は「ゆく」の方がより標準的と考えられていたようですが、現在では、小学校の国語教科書などを見ても「いく」の方が多く用いられています。また、「いく」の連用形が「て」「た」「たり」に続く場合、「いっ(て・た・たり)」という促音便の形が使われますが、「ゆく」の方には、「ゆっ(て・た・たり)」という言い方はありません。

このように「ゆく」の用法が限られているという点でも、現代の口語としては「いく」の方が基準となっています。「春の小川」の歌詞も、以前は「はるのおがわは、さらさらゆくよ」と歌われていましたが、現在の教科書では「さらさらいくよ」となっているようです。

ただし、次のような語は常に「ゆく」が使われ、「いく」とは読まれませんので注意しましょう。国語辞典を見ても、「ゆく」が本来の読み方であることが分かります。

「この。危ないことするんじゃないぞ」
厚たちは素直に返事をする。
[[[[「ユクサキ」]]]]
本丸の廊下を疾走する狼、それを必死に追いかける南泉。
そんな一匹と一振の行く先に、甘酒を片手に酔っ払っている不動行光がいた。
ドタバタと走る足音に気づいた彼は、不思議そうに呟く。
ソハヤノツルキに促され、大典太は滑車の取っ手に手をかけ、自身の行く先を鋭い眼光
厚たちは素直に返事をする。

行き交う 行きがた知れず(ユキガタ■シレス) 行き暮れる 行きずり(の人)
 行きつ戻りつ(ユキツ■モドリツ) 行き悩み 行き場(がない) 行きまどう
 行きまよう 行く秋(ユク■アキ) 行くえ(不明) 行く先々 行く末
 行く手 行く年(返る年)(ユク■トシ) 行く春(ユク■ハル) 行く行く
 このように、問題の「行き交う」は「ゆきかう」と読むことができます。

〈参考〉『言葉に関する問答集 総集編』(文化庁 2005年1月)

45.p14 3.調査 『点訳フォーラム』より

「行き場」「行く先々」の読みについて

「てびき3版 指導者ハンドブック 第2章編」p10に《次のような語は常に「ゆく」が使われ、「いく」とは読まれませんので注意しましょう。国語辞典を見ても、「ゆく」が本来の読み方である》とあり、その中に「行き場(がない)」があります。点訳フォーラムの語例で調べると、「イキバガ■ナイ」となっていて注記として「ユキバとも」とあります。ハンドブックとの違いはなぜでしょうか。「イキバ」と読んでいいとしても、なぜ「ユキバ」の方が注記になるのでしょうか。「行く先々」もなぜ「イク」も可になっているのでしょうか。

話の持って行き場が無い ハナシノ■モッテ■イキバガ■ナイ 「行き場」は「ユキバ」とも

行く先先；行く先々 ユク■サキザキ 「イク■サキザキ」も可

【A】

語例集の場合は「話の持って行き場がない」ですので、「持って行く」に「場」が付いた形です。この場合の「行き」は補助動詞ですので、単独の「行き場」と異なり、「いき」と発音することも多いと思います。そのために「読み」を「いきば」とし、注記に「ゆきば」を付けました。「行く先々」も、「行く」という動詞の意味が強く、「行く■先々」とマスあけしますので、注記はそのままにしたいと思います。

行く先	ユクサキ	
行く先先；行く先々	ユク■サキザキ	「イク■サキザキ」も可
行き先を尋ねる	ユキサキヲ■タズネル	

行く当ても無い ユク■アテモ■ナイ 「イク■アテモ■ナイ」も可

9.p104 1.カギ類 『点訳フォーラム』より

「「「「したいに決まってるだろう！」」」」

この文面でカギが4個重なって書かれているのですが、点訳を「したいに■きまってるだろー！」としたのですが、「点訳挿入符」で説明が必要でしょうか。必要とすれば、どのように点訳すればよいでしょうか。「てびき」にもないので同じ記号を重ねることはできないと思います。

【A】

大勢の人が同時に発言したことを表しているのかもしれませんが、前後の文脈で理解できると思いますので、一つの第1カギで囲んで書いてよいと思います。

「シタイニ■キマッテンダロー！」

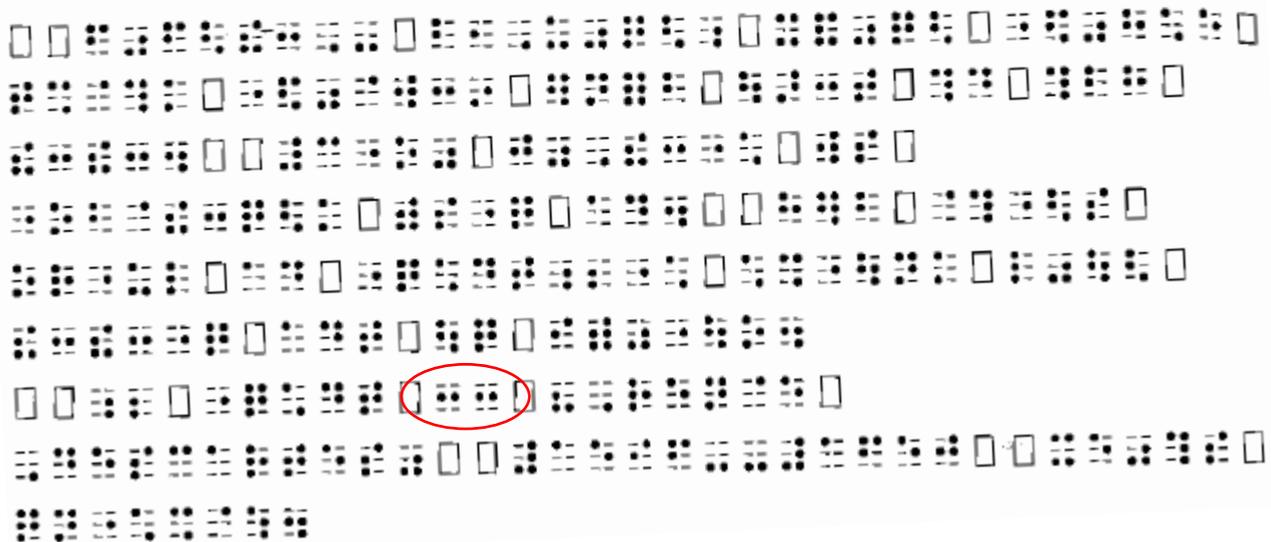
(6) 注記の見出しは原文を参考にし、文中注記符だけを書くか、または該当事項を添えて書く。文中注記符だけを書く場合は、後ろを一マスあけて注記を書く。該当事項を添えた場合は、注記との間をニマスあけたり、棒線・点線や第1小見出し符を用いて書く。

指導者ハンドブック第4章より

文中注記符がついた語句と説明の間は、ニマスあけ(≡≡)、棒線(≡≡)、点線(≡≡≡)、第一小見出し符(≡≡)のどれでも誤りではありません。

演繹法：一般的、普遍的原理から特殊な現象を説明しようとする推理方法。三段論法がその代表的なものである。理性主義の立場にあるデカルト* が確実な認識方法であるとして重んじた。

* デカルト René Descartes 1596~1650 フランスの哲学者。



『点訳フォーラム』より

15. p123 3.文中注記符

原文の注記が*や※ではなく、(1)(2)や1.2.・・・のように書いてある場合は、どのように点訳すればいいでしょうか。

【A】

墨字では「てびき」p124 の例のように「* 1」の形や、(注1) (1) など様々な形が見受けられますが、原本でどのように書かれているかに関わらず、語や文をマークしておいて後で説明を記載する方式で処理する場合に、点字では文中注記符を用います。なお、原文で(注1)のようにカッコに囲まれているからといって、文中注記符をカッコに囲む必要はありません。文中注記符だけを書きます。文中注記符を用いる場合は、注の説明を書く箇所でも、墨字原本の書き方に関わらず、文中に用いた文中注記符を冒頭に記載して、対応を明らかにします。「てびき」p124 の例でも、墨字原文では冒頭に「注1」とありますが、点訳例では数字をはさんだ文中注記符になっています。

『点訳のてびき第3版 Q&A 2集』より

【Q 89】 「…君主制(*1)…」のような場合、注記符をさらにカッコで囲むと複雑になりますが、原文通り書くのでしょうか。

A この場合カッコは省略し。文中注記符のみで示します。

クンシュセイ¹ となりませう。

『点訳のてびき第3版 Q&A』より

【Q106】 文中注記符の(2)に「その後ろは分かち書きの原則に従う」とあります。では、「ENS *1とは～」や「pretend *1とは～」のように、アルファベットや外国語の後ろに文中注記符が付いた場合はどうなりますか？

A 文中注記符は、語句や文の直後に書きます(「てびき」(P123 3.(2)、P131. (4)参照)ので、外文字に続くアルファベットや外国語引用符の閉じ記号にも続けて書きます。そして、その後ろは分かち書きの規則に従います。

助詞・助動詞は、アルファベットや省略符としてのピリオド、および外国語引用符の後ろに続く場合は、前を区切って書きますが、間に文中注記符が入ると外国語引用符などと助詞・助動詞が続きませぬので、一続きに書きます。

ご質問の語は次のようになります。

ENS *1 ト

Pretend *1 ト

《Q》 < Microelectronics*1)のように長い語に文中注記符が付いているとき、文中注記符の前で行移しをしてもよいのでしょうか？

《A》 P148 2. (1)を参照してください。数符付きの文中注記符の前では行移しできます。

備考 行移しは、行末があきすぎる場合などに次の箇所で行うことができる。

(1) 本来続けるべきカッコ類や点訳挿入符の前、数字付きの文中注記符の前

【Q107】 文中注記符の内側には、数字以外のものをはさんではいけないのでしょうか？

A 文中注記符 p123 にもあるように、文中注記符には数字をはさみます。

数字以外のものは、はさむことができません。

《Q》 一つの言葉に「注2、注3」などと二つ以上書いてある場合は、どう書くのでしょうか？

《A》 一つの言葉に注が二つ以上付いている場合は、それぞれに文中注記符を用い、続けて書きます。

夏目漱石*1*2

ニハツシユシツクシ¹²

【質問】

中点について質問です。『水たまりで息をする』高瀬隼子著で、以下の文が出てきます。

放流のサイレンが流れたのは、昼休みだった。外へ昼食を買いに出た同僚が慌ただしく戻り、「すごい雨」と興奮した様子で言った。その時、ピンポンパンと放送チャイムの音がした。「市役所にお越しのみなさまにお知らせです。本日、ダム放流を行っています」そう説明する男性の声に続いて、ウーツ、と高いような低いような音でサイレンが鳴ったあと、女性の声でアナウンスが流れた。

「かわが・ぞうすい・しています・あぶない・ですので・ちかづかない・ように・しましょう」

衣津実が立つカウンターの近くに窓はなかったが、カウンターの窓口を横に五つ挟んだ先にある正面入口の自動ドアが開く度、外から雨の空気が入ってきた。

「かわが・ぞうすい・しています・あぶない・ですので・ちかづかない・ように・しましょう」の中点の処理ですが、『点訳のてびき』103 ページ(2)③で 原文の意図や読みやすさなどを考慮した上で、中点はマスアケに代えると、本来続けるべき助詞のところがマスアケになってしまいます。

著者は、アナウンスが途切れ途切れに聞こえることを、中点をつかって表現したいのではないかと考えるのですが、どう点訳すれば伝わるのでしょうか？

【回答】

中点の働きは「対等な関係を表す」ことですので、点字で中点が使われていても、途切れ途切れに言っているんだなということは伝わらないと思います。ご質問の場合は、そこで切れて聞こえる(間があいて聞こえる)状況だと思いますので、中点の所を読点に置き換えて点訳するのがよいと思います。

「かわが・ぞうすい・しています・あぶない・ですので・ちかづかない・ように・しましょう」

→

「カワガ、■ゾースイ、■シテ■イマス、■アブナイ、■デスノデ、■チカツカナイ、
■ヨーニ、■シマショー」

となります。

ざあざあ、音が耳の形にびったりなじんでしまうほど長く、雨が降り続いた。雨水の流れる道路はすべりやすいように見え、衣津実はいつもより早めに家を出た。山道を抜けるまで、のろのろと形容していいスピードで車を走らせた。道の隣を並走するように流れる川は、水量が多いものの氾濫する気配はない。夫は雨でもかまわず川に行ってしまうので、「とにかく気を付けてね」と何度も注意している。

放流のサイレンが流れたのは、昼休みだった。外へ昼食を買いに出た同僚が慌ただしく戻り、「すごい雨」と興奮した様子で言った。その時、ピンポンパンと放送チャイムの音がした。「市役所にお越しのみなさまにお知らせです。本日、ダム放流を行っています」そう説明する男性の声に続いて、ウーツ、と高いような低いような音でサイレンが鳴ったあと、女性の声でアナウンスが流れた。

「かわが・ぞうすい・しています・あぶない・ですので・ちかづかない・ように・しましょう」

衣津実が立つカウンターの近くに窓はなかったが、カウンターの窓口を横に五つ挟んだ先にある正面入口の自動ドアが開く度、外から雨の空気が入ってきた。室内にいても分かるほどの濃い雨の気配を、けれど彼女は気に留めなかった。家はダムよりも上だから、そもそも放流とは関係がない。トイレに立った時に、夫に「ダム放流してららしいよ」とメールを送ったが、返信はなかった。

その3 線類

1.p113 1. 棒線・点線

補足説明と思われる棒線の前後のマスあけについて、カギで囲まれた会話文の間にあります。

「もうお分かりでしょう」―彼女の言葉には、不安にさせるものがあった―「わたしの関心は精神的な面なのです。(以下略)」

この文の後は改行して次の段落が始まります。

カギと棒線の間、棒線とカギの間は記号間の優先順位から両方とも一マスあけでよいでしょうか？

【A】

前後を棒線で囲んで、カッコ類と同じように、前の語句の説明をしています。この場合は、一つの文の中に含まれていると見なして、棒線の両側は一マスあけます。

「もうお分かりでしょう」■―■彼女の言葉には、不安にさせるものがあった■―■「わたしの関心は精神的な面なのです。」

【新規】p113 1. 棒線・点線

文を棒線で括っている時の点訳方法を教えてください。

原本で移民や冒険者に対する根強い偏見があるらしいデニスは、そうなるに至った大きな事件―冒険者だった父親の死に関する―があったという。

とあります。この時の棒線を点訳者は、原文通りに②⑤②⑤の点(⋯⋯)の棒線で点訳しています。原文通りで間違いとは思いますが棒線で括った文が前の説明と考えると(～)に置き換えても良いですか。校正の範囲外のことですが確認したいと思いました。

【A】

この棒線の用法は確かに説明のカッコと同じですが、墨字の棒線にももともとそのような用法があります。

「点訳のてびき第3版指導者ハンドブック第4章編」の巻末にある「くぎり符号の使ひ方」の「(4)ナカセン」に《七、補助的説明の語句を文中にはさんでカッコでかこむよりも地の文に近く取り扱ひたい場合に用ひる》とあります。

ここから、これは棒線の用法の一つとして、墨字に対応して用いてよい棒線になります。

ですから、原本で使用している棒線をカッコに換えるように校正するのは、行き過ぎになると思います。

くぎり符号の使ひ方(句読法)

(4) ナカセン		
<p>一、ナカセンは話頭をかはずるときに用ひる(例1)。</p> <p>二、語句を言ひさして余韻をもたせる場合に用ひる(例2)。</p> <p>三、カギマカこむほどでもない語句を地の文と分ける場合に用ひる(例3)。</p> <p>四、時間的・空間的な経過をあらはす(例45)。</p> <p>五、時間的・空間的に「乃至」または「より——まで」の意味をあらはす(例67)。</p> <p>六、かるく「すなはち」の意味をあらはす(例89)。</p> <p>七、補助的説明の語句を文中にはさんで、カッコでかこむよりも地の文に近く取り扱いたい場合に用ひる(例1011)。</p> <p>八、ニホンナカセン(=)を短いくぎりに用ひることがある(例12)。</p>	<p>(1)「それはね、——いや、もう止ませう。」</p> <p>(2)「まあ、ほんとうにおかはいさうに——。」</p> <p>(3)これではならない——といつて起ちあがつたのがかれであつた。</p> <p>(4)五分——十分——十五分</p> <p>(5)汽車は、静岡——浜松——名古屋——京都と、嵐の夜の闇をついて走つてゆく。</p> <p>(6)そのきつめは、少くとも三—五週間の後でなくてはあらはれません。</p> <p>(7)上野—新橋、渋谷—築地、新宿—日比谷の電車、終夜運転</p> <p>(8)この海の中を流れる大きな河——黒潮は、</p> <p>(9)心持——心理学の用語によれば情緒とか気分とか状態意識とかいふのであるが、</p> <p>(10)ふと、荒城の月の歌こゑが——あの寄宿舎の窓からもれてくるのであらう——すゞしい夜風に乘つて聞えてくる。</p> <p>(11)方法論——それは一種の比較的形式である——は、</p> <p>(12) (東京・富田幸平=教員)</p>	

『日本点字表記法 2018 年版』 より 70 ページ

6. 補足説明の棒線

前の語句や文の補足説明をカッコ類で囲むより地の文に近く取り扱いたい場合、前後ろを棒線で囲んで書き表す。棒線の内側と外側の語句とは一マスずつあける。

【例】 ゴゼン□ ::::ジ□ ::::□ソノ□コロノ□ ::::ジト□
 イエバ ::::□マダ□ウスグラカタ□ ::::□ワタシワ□
 トピオキタ ::::

〔 午前5時 — その頃の5時と言えば、まだ薄暗かった — 私は飛び起きた。 〕

「開く」で「あく」と「ひらく」の使い分け、読み分けはどうなりますか。

【A】
国語辞典で「開く(ひらく)」を引くと、辞典によっては 15 以上も語義が載っています。自動詞も他動詞もあり、どんな場合に読み分けるのか迷います。

そこで、「開く」(あく)の方を引いてみると、「明く」「空く」の漢字もあり、書き分けなども加味すると、どの辞書もおよそ次のような例が挙げられています。

自動詞

1. ぴったりとさえぎっていたものが、ずらされたり除かれたりする
「戸が^あ開く、幕が^あ開く、瓶の口が^あ開く、蓋が固くて^あ開かない」
2. 合わさっていたものの間に隙間ができて中が見えるようになる
「口が^あ開く、目が^あ開く」
3. 肌が広く出る 「背の^あ開いた服」
4. 穴ができる 「胃に^あ穴が開く」
5. 錠はずれる 「かぎが^あ開く」
6. 営業が始まる 「店が^あ開く、初日が^あ開く」
7. 開票になる 「票が^あ開く」

他動詞

1. 自然にあける 「口を^あ開く、目を^あ開く」
慣用句 「開いた口が^あふさがらない」

「あく」は、自動詞なので、目的語がある場合は「あける」になります。

ドアを^あ開ける、カーテンを^あ開ける、ジュースの栓を^あ開ける、口を^あ開ける、目を^あ開ける 本を^あ開ける、かべに穴を^あ開ける、かぎを^あ開ける、店を^あ開ける、票を^あ開ける

ですから、目的語がある場合は、他動詞の「ひらく」と読みます。

ドアを^{ひら}開く、窓を^{ひら}開く、店を^{ひら}開く、心を^{ひら}開く、口を^{ひら}開く…いずれも「ひらく」になります。

辞書の説明によると、他動詞(目的語がある)で「開く」を「あく」と読むのは、意識的でなく、ぽかんとした状態の時だけという説明です。

これは、辞書による、およその使い分けで、特に1. や7. の意味の時には、「ひらく」とも読みます。ただ、「花のつぼみが^{ひら}開く、足が^{ひら}開く、実力の差が^{ひら}開く」などは「ひらく」としか読みません。

以上のことは、すべて、小型の国語辞典に書いてありますので、「開く(ひらく・あく)」という簡単な語でも、国語辞典を引くと興味深く、いろいろな情報が得られます。

1 自動詞と他動詞 — 動作や作用が主語以外に及ぶかどうか

ア 人が 集まる。
イ 人を 集める。

右の例で、ア「集まる」は、主語である「人」についての動作や作用を表している。このような動詞を**自動詞**という。

また、イ「集める」は、その主語（ここでは省略されている）が、ほかのもの、すなわち「人」に及ぼす動作や作用を表している。このような動詞を**他動詞**という。



作や作用を表している。このような動詞を**他動詞**という。

参考 「くを」を伴う**他動詞** 他動詞が述語になる場合は、その上に動作や作用が及ぶものを表す**目的語**「くを」という形の**修飾語**を伴うことが多い。

例 手紙を 届ける。「くを」という目的語を伴い、他動詞) ただし、次のような「くを」の場合は、「くを」を伴っていても他動詞とはならないので注意したい。

例 駅を 出た。(動作・作用の起点を示す「を」)
道路を 走る。(経過する場所・時間を示す「を」)

(考え方)

自動詞・他動詞の区別をするには、まず「～が」に続くか、「～を」に続くかを考えてみるとよい。

(ポイント)

自動詞・他動詞の見分け方

他動詞は「～を」という目的語をとるが、自動詞はとらない。

例題研究 1

- 次の 線部の動詞は、自動詞・他動詞のどちらかを答えなさい。
- ① 電車のドアが、開く。
 - ② 駐車場に車を、止める。
 - ③ スープが、冷める。
 - ④ 子どもが車を、汚す。
 - ⑤ 手紙を家族に、届ける。
 - ⑥ 窓が開いています。寒いので閉めてください。
 - ⑦ ぶいと横を向く。

考え方 自動詞・他動詞の区別をするには、ま

ず「～が」に続くか、「～を」に続くかを考えてみるとよい。

ポイント ● 自動詞・他動詞の見分け方が、自動詞はとらない。

⑤は「手紙を」の部分が、動詞「届ける」と離れている。また、⑥は直前の内容からわかるので、「窓を」の部分が省略されている。⑦の「横を」の「を」は、「方向を示す」を「向く」なので他動詞を見分ける基準にはならない。「向く」「向ける」の対を頭に置いて他動詞かどうかを決める。

- 答** ①自動詞 ②他動詞 ③自動詞 ④他動詞
⑤他動詞 ⑥他動詞 ⑦自動詞

10.p14 3. 調査

「他(た、ほか)」の読み方で、いつも悩みます。

点訳する上で、「た」と読むか、「ほか」と読むか、何か決定的な決まりはありますか。

【A】

決定的な決まりといえるものはないと思います。文脈や後ろに続く「てにをは」や前後の言葉遣いで自然かどうかを判断することになります。

ただ、「夕」では点字では意味が取りにくいのではないかと心配される方もいますが、以下のような理由から、「夕」と読む方が自然な場合が多いと思われる。

1. 現在では「他」は音読みが「夕」、訓読みが「ほか」となっていますが、常用漢字表が改定されるまでは、「他」の読みは「夕」だけで、「ほか」は仮名で書くか、「外」の漢字を当てていました。戦後、長くこの状態が続いていたので、現在でもこのような文字遣いになっている読み物が多いと思います。

2. 「そのた」には、「その他」の漢字だけが当てられます。「そのほか」は仮名か、「その外」となります。特徴的な使われ方としては

「ほか」ほかでもない、～ほかない(驚くほかない)、ほかに～ない

～のほか(思いのほか、思案のほか、このほか)

～ほか何名

「た」 たを～(他を^{た あつ}圧する、他を^{た かえり}顧みない、他を犠牲にする…)

たに～(他に^た先駆ける、他に^た抜きでる)

たと～(他と^た区別する、他と異なる)

たの～(他の^{た ついずい}追隨を許さない、他の業者の手に^た渡る)

などがあります。

このように、「他(た、ほか)」は、まず「た」と読み、文脈上「ほか」と読んだ方がふさわしい場合に「ほか」と読むようにするのがよいと思います。

11.p14 3. 調査

「描く」は「えがく」「かく」をどのように読み分ければよいですか。

【A】

「描く」も「私(わたくし・わたし)」「他(た・ほか)」と同様、常用漢字の改定の際に、「えがく」に「かく」の読みも加わった漢字です。

本来は「えがく」で、

①絵や図をかく

②様子を写し出す。表現する。描写する。「若い教師の生活を^{えが}描いた作品」

③心に思い^{えが}描く、創造する。「理想を^{えが}描く」「勝利を胸に^{えが}描く」「夢に^{えが}描く」

④ものが動いた跡をある形に表す。「狐を^{えが}描く」「トンビが輪を^{えが}描いて飛ぶ」

などのような意味があります。(「大辞林」などから)

この中で、「かく」とも読めるのは、①と④の意味で文の流れから「えがく」と読むと不自然な場合や、「絵^え描^かき」(えかき)のような例になると思います。

「孫が幼稚園で絵を^か描いてきた」「出勤前にさっと眉を^か描く」のような場合は、「かいてきた、かく」のほうが自然に読めると思います。

しかし、「描写する、創造する」のような内容の場合は、「えがく」の方が自然に読めます。

「かく」には本来「書く」という漢字を当てていますので、「描く」は基本的には「えがく」と読み、上記のように、絵や図、線などを(芸術的にではなく)書いているような場合で、「えがく」と読むと流れが不自然な場合にのみ「かく」と読むのがよいと思います。

7.p14 3. 調査

「母子(ははこ)」、「父子(ちちこ)」の点訳についての質問です。

母子家庭、父子家庭などの熟語では「ボシ」「フシ」ですが、下記のような文章では「ボシ」「フシ」は感覚的には不自然なように思えます。

- ①すぐ後ろに並んでいた母子は帰っていった。
- ②19歳のメスのキリンと8歳のオスのキリンがいる。母子だ。
- ③「ねえ、お父さん。どうして…なの?」と息子は聞いた。父はこう答えた。……あの父子はその後、どうしたのだろう。

①:前文で母親と子供のことは書かれていないので、「ハハコ」の方が理解しやすいのでは?

②:前文で母親と子供のことが書かれているので、「オヤコ」がよいのでは?

③:前文で父親と子供のことが書かれているので、「オヤコ」がよいのでは?

黙読しているときには、「ボシ」「フシ」とは読んでいないと思うのですが…「ボシ」「フシ」でよいという人が多いのですが、どうなのでしょう?

【A】

「親子」のことを「父子・母子・父娘・母娘(ちち■コ・ハハ■コ・ちち■ムスメ・ハハ■ムスメ)」などと書かれているのは、「おやこ」の組み合わせを具体的に示そうとする書き手の選択によると思います。ですから、これらは、いずれも「おやこ」と読むのが自然だと思います。

もちろん、「母子手帳、母子家庭、父子家庭」などは「ボシ・フシ」と読みますし、「母子」は「母子草」など、「ハハコ」とも読みます。

ご質問の①②③はいずれも「オヤコ」と読んでいいと思いますし、①は「ハハコ」と読んでもよいと思います。

「父子・母子・父娘・母娘」などを「オヤコ」と書いただけでは、その関係が分からず、説明を必要とする場合は「オヤコ(ちち■ムスメ)」などと、第1カッコで補います。

これは、「きょうだい」を「兄妹、姉弟」などと書かれている場合も同じになります。

『点訳フォーラム』より

【質問】

分かち書きの質問です。「揚げ進んだ」と「戦い倒れる」？

原文は以下のとおりです。

(1) アメリカ国旗を揚げ進んだ。「回天」は攻撃の際、アメリカ国旗を下げ日章旗を上げた。

(2) 函館で戦い倒れることこそ、我が誉れとしていたからだ。

(1)「揚げ進んだ」は複合動詞と考えてると「アゲススダ」としていいのでしょうか？

(2)「戦い倒れる」は一連の動作になっているということで、複合動詞で「タタカイタオレル」それとも中止法の用法で「タタカイ■タオレル」ですか？

【回答】

(1)「揚げ進んだ」は一続きに書いてよいと思います。

(2)「戦い倒れる」は、迷うところですが、「戦い倒れる」も複合動詞と考えて続けて書いてよいと思います。戦いそして倒れる場合は、間に読点がいいると思います。

『点訳のてびき』80 ページ

コラム 19

動詞の連用形と中止法

動詞の連用形は働きものです。

まず、そのままの形で名詞になります。「遊び」「生まれ」「輝き」などがそうです。

次に、その名のとおり用言に連なって複合語を作ります。「語り合う」「喜び迎える」「分かりやすい」「使いよい」などのようにです。

そして、文を途中で言いさすときにも使われます。文章をいったん中止させるので、このような用法を中止法といいます。「花が咲き、鳥が鳴く。」「人々は酒に酔い、歌い、踊り、宴を続けた。」普通はこのように読点を用いますが、読点を用いない表記も多く見られます。読点がない場合は、文脈から中止法か複合動詞か転成名詞かを判断し、適切な分かち書きを行います。

花々は季節に従って咲き盛り枯れる。

[ハナバナワ[キセツニ[シタガッテ[サキ[サカリ[カレル]]]]]

彼女はそれを思い出し笑いころげた。

[カノジョワ[ソレヲ[オモイダシ[ワライコロゲタ]]]]]

いつまでも思い出し笑いしていると課長に睨まれるわよ。

[イツマデモ[オモイダシ[ワライ[シテルト[カチャーニ[ニラマレルワヨ]]]]]

『点訳フォーラム』より

【質問】

質問が目次の書き方です。『ラストサムライの函館戦争』 中島克之著です。

①原本で次のようになっています。

主な舞台 最前線で戦った戦士達 → 9マス目からの見出し

(遊撃隊) → 7マスからの見出し

(17)五稜郭に散った隻腕戦士 伊庭八郎 → 7マス目からの見出し

(18)満身創痍で放った6連発ピストル 人見勝太郎

(衝鋒隊)

(19)ヨーロッパ式歩兵隊隊長、函館に死す 古谷作左衛門

■■オモナ■ブタイ■■サイゼンセンデ

■■■■タタカット■センシタチ■・ ・ ・ ・ 数○

ユーゲキタイ(改行マーク)

(17) ■5'リョーカクニ■チッタ■セキワン■センシ

■■イバ■ハチロー ・ ・ ・ ・ ・ 数○

(18) ■マンシン■ソーイデ■ハナツタ

■■6レンパツ■ピストル■■ヒトミ■カッタロー

・ ・ ・ ・ ・ 数○

と点訳されているのですが、「ユーゲキタイ」のあと改行されているのが気になります。

【回答】

「幕臣 忠義を貫いた侍達」の大見出しの下に1~8の見出しがあり

「新選組 常勝将軍と共に」の大見出しの下に9~16の見出しがあり

「おもな部隊 最前線で戦った～」の下にだけ中見出しとして

遊撃隊 が、17~18

衝鋒隊 が、19~20

彰義隊 が、21~23

額兵隊 が、24まであり、その後はまた

「会津藩 ~」25~29、「フランス軍~」30~34、「味方と敵~」35~40まで、大見出しと小見出しの関係になっています。

点訳書の目次は点訳書の見出しに合わせますので、「遊撃隊」「衝鋒隊」「彰義隊」「額兵隊」を独立して7マス目からの見出しにしているのでしたら、目次でも同じ扱いで、独立して1行に書き、ページも入れるのがよいと思います。

その際、7マス目からの見出しでも強調する意味で、カギ類(第1カギ「 」か第2カギく)で見出しを囲めば、分かりやすいのではないのでしょうか。本文でも7マス目からカギで囲んで書きます。

1~40の見出しは7マス目から書くのが適した大きさであると思いますので、見出しの大きさは今のままでよいと思います。

『点訳のてびき』 155 ページ処理(3)見出しの段階や序列が明らかな場合は、必ずしも行頭のあけ幅に差をつける必要はない。 156 ページ コラム 30 参照

『点訳のてびき Q&A 第2集』 Q116

段階を設ける必要がある場合や見出しの段階を示す数字などが原本に全く付いていない場合は、行頭のあけ幅が同じでも、より大きい見出しにカギ類を付ける、より小さい見出しを棒線で囲む、またはカッコ類で囲む方法がみられます。

ただし、これらの方法は一般書では出来るだけ避けた方がよいでしょう。見出しの種類が複雑で、レイアウトが多様な刊行物や広報誌などでは、分かりやすさを工夫した上で、用いられることがあります。

主な部隊
最前線で戦った戦士達

目次 「ラストサムライの箱館戦争」

はじめに 3

幕臣 忠義を貫いた侍達 13

1 近代日本の礎となった最後の侍 ○榎本武揚 14

2 陰に徹した人望厚き「副将」○松平太郎 22

3 玉砕よりも生きる道を ○大島圭介 27

4 土方歳三の無念を伝える「歳三のごぶし」○澤太郎左衛門 31

5 忠義に生きた親子「最期の地」○中島三郎助父子 36

6 旧幕府軍を支えた影の英雄 ○田島成親 69

7 「ラストサムライ」の詩りを書き残す ○小杉雅之進 45

8 「敵であろうと」——命をかけた博愛精神 ○高松凌雲 50

新選組 常勝將軍と共に 59

9 武士の矜持を最後まで ○土方歳三 60

10 蝦夷を駆け抜けた新選組の巨漢隊士 ○島田魁 69

11 新選組の姿を後世に残した隠密隊士 ○中島登 74

12 「憎まぬ者ぞ無かりけり」○村利三郎 79

13 忠義に殉じた新選組隊長 ○森常吉 84

14 謎の自害を遂げた新選組最後の隊長 ○相馬主計 88

15 土方最期の戦いを伝えた少年隊士 ○市村鉄之助 93

16 十五の歳で命が惜しければ…… ○田村銀之助 98

主な部隊 最前線で戦った戦士達

17 五稜郭に散った隻腕剣士 ○伊庭八郎 104

18 満身創痍で放った6連発ピストル ○人見勝太郎 108

19 ヨーロッパ式歩兵隊長、箱館に死す ○古屋佐久左衛門 114

20 「龍馬を斬った男」の戊辰戦争と信仰 ○井信郎 118

21 旧幕府軍を救った勇気ある「阻止」○大塚聖之丞 123

22 近代日本経済の先駆者と共に ○流沢成一郎 127

23 結核に放った若き戦士 ○三好 胖 132

24 最期の戦いを求めたスナイデル銃の近代部隊 ○星梅太郎 136

会津藩 悲劇を背負った会津武士 141

25 蝦夷に流れた会津の悲劇の家老 ○西郷頼母 142

26 刀折れ、弾尽くとも会津人は退かず ○安部井政治 146

27 箱館で戦った白虎隊の兄 ○石田五助 151

28 侍の時代に幕を引いた会津武士 ○源助常吉 155

29 博愛精神を支えた病院事務長 ○小野権之丞 159

フランス軍 誇り高きサムライ達 163

30 箱館で戦った本物の「ラストサムライ」○ジュール・ブリュネ 164

31 惨敗に終わった時代遅れの「シージャック」○アンリ・ニコール 171

32 回想録を遺したフランスの侍 ○ウージェーヌ・コラッシュ 175

33 日本で生きた「ラストサムライ」○ジュール・クラトー 180

17 遊撃隊
五稜郭に散った隻腕剣士



「伊庭の小天狗」「伊庭の麒麟児」と異名を取った白眉美形の剣士伊庭八郎は、幕末江戸四大道場の一つ下谷御徒町の「心形刀流伊庭道場」の宗家に生まれた。幼少時は漢学や剣術を好み、剣術に熱心ではなかったそうであるが、16歳位から本格的に取り組み始め、めざましい腕を上げたという。將軍徳川家茂が上洛する際、刺客50人で奥詰衆(將軍の親衛隊)が発足。伊庭八郎も選ばれた。

幕府は兵力整備のため、徳川家茂の死後解散していた奥詰衆を、遊撃隊に改編。伊庭八郎も参加した。しかし突然の大政奉還。伊庭は遊撃隊を率い、新政府軍と戦う道を選んだ。鳥羽・伏見の戦いでは、圧倒的な戦力差の前に大敗。伊庭は胸部に被弾するも奇跡的に助かった。多くが新政府軍に降伏する中、伊庭はあくまで徹底抗戦に突き進んだ。伊庭八郎の戦いで触れなければならないのは、箱館山崎の戦いである。新政府軍の江戸入りを目指しようと、遊撃隊は新政府軍についた小田原藩などと箱館で戦う。伊庭は、ト

34 土方歳三と銃撃戦に参加したフランス軍人 ○ア

味方と敵 ラストサムライは他にも 189

35 五稜郭復興に尽くす ○片上楽天 190

36 日英同盟締結の立役者 ○林 暹 194

37 「函館の味」の礎を築く ○五島英吉 199

38 旧幕府軍を翻弄したスパイ ○斎藤順三郎 203

39 箱館戦争を見つめた女性達 ○箱館の遊女達 208

40 義に殉じた志士のために ○柳川藤吉 213

おわりに 217

【参考資料】 219

■略年表 220

■箱館戦争の軌跡 222

■五稜郭 225

■遊撃隊と函館 225

■旧幕府軍に参加した部隊と船 226

■旧幕府軍役職者と入札点数表 231

■王な参考文献 233

【遊撃隊】

主な部隊 最前線で戦った戦士達

18

五稜郭に散った隻腕剣士 ○伊庭八郎

○人見勝太郎

17

五稜郭に散った隻腕剣士

○伊庭八郎



「伊庭の小天狗」「伊庭の麒麟児」と異名を取った白檜美好の剣士伊庭八郎は、幕末江戸四大道場の一つ下谷御徒町の「心形刀流伊庭道場」の宗家ご主人。カク月と...

Braille text block with highlighted lines (cyan and green)

Braille text block with highlighted lines (cyan and green)

本文見出し

Braille text block with highlighted lines (cyan and green)

Braille text block with highlighted lines (cyan and green)

×

○

×

○

23.p183 2. 図の書き方

写真が複数枚あり、キャプションがついているものとついていないものが混在している本です。写真の内容説明については全て省略し、キャプション付きのものだけ、キャプションのみを点訳することとしました。

点訳方法として複数写真がある場合、各見出しの終わりに仕切りの線を引き、そのあと「シャシ■ ■数〇マイ」と見出しを作り、そのあとにキャプションを書くこととしました。

写真の全部にキャプションがついてあった場合は、枚数かかれてあればより親切だなと思ってつけたのですが、キャプションなしとありが混在していたら、点訳しているキャプションの数と枚数が合わずに読者が違和感を覚えるのではないかとこの意見がありました。全部にキャプションがついていれば枚数明記、そうでなければ枚数を入れない、もしくはキャプションありの枚数だけをという風に臨機応変に対応してもいいのでしょうか。

てびきの例(p186)のように番号がふってあればよいのですが、ふっていないことも多いです。何か良い方法があればご教示いただけないでしょうか。

【A】

写真の処理については、「てびき」p207「9. 点訳書凡例」の⑥図や表、グラフ、写真などの処理方法にありますように、点訳書凡例で断ることをお勧めしています。

原本の位置ではなく、各見出しの終わりなどにまとめて入れることが多いと思いますので、その位置を示す必要があります。その際、写真に番号を付けたことや、キャプションのある写真だけを示したこと、またはキャプションのない写真には点訳挿入符で簡単な説明を入れたことなどを書くことにすれば、点訳の意図も伝わりますし、工夫して分かりやすく書くことができます。

ご質問のような処理の仕方の場合、例えば、

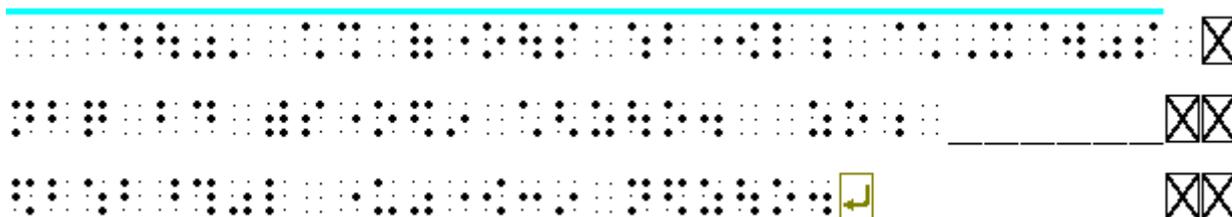
写真は各見出しの最後に、キャプションの付いているものだけを書きました。また、掲載順に番号を付けました。

のようにすればよいと思います。

例

点訳書凡例で

写真は各見出しの最後に、キャプションの付いているものだけを書きました。また、掲載順に番号を付けました。



29.p183 2. 図の書き方

原本に8か所図表が記載されています。

そのうち、2、3の図表の内容把握が、複数の点訳者で読み解くのですが、困難です。表示の範囲、内容に不明な点が多く、無理に読み解き、表記するのが不安です。

わかる範囲での書き記しはするつもりです。点訳書凡例で断り、本文中でも該当図表を省略したことを記することは可能でしょうか。その場合の判断基準、凡例例文などもお願いします。

【A】

原本の図表のなかには、本文に概要が書いてあり、原文内容の読み取り、理解に差し支えがない図表も多くありますし、また、概要が分かればすべて説明をしなくてもよいものや、墨字を読む人も視覚的な傾向を大まかにみただけの図表なども含まれます。

できるだけ点訳した方がよいものの、何ページにもわたる表になって、原文の意図する主要内容から離れてしまうようでは省略した方がよいとも言えます。

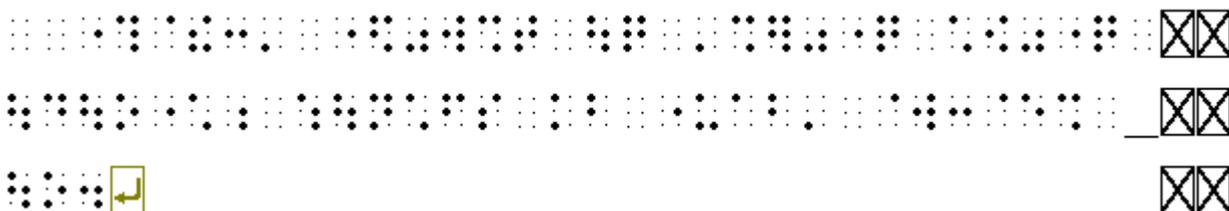
点訳書凡例で、《図表は原則として枠線で囲んで記したが、差し支えのない場合は省略した。》と断わり、本文の該当箇所、図表の番号、タイトルを入れ、その後に、ショーリャクと書けばよいと思います。

図表をそのままの形でなく、文章で説明する場合も枠線の中に書きます。点訳挿入符で、《図を言葉で説明する》《図を文章化して記す》などと断ります。

例

点訳書凡例で

図表は原則として枠線で囲んで記したが、差し支えのない場合は省略した。



点訳挿入符で

図を言葉で説明する



図を文章化して記す



30.p183 2.図の書き方

図を省略する場合、図の番号やタイトルの後に「省略」と書くことを断っておけば、図の番号やタイトルの後に第1カッコで囲んだり、図の番号、タイトルと共に第1カッコで囲むことができるということです。

(図5)南部バプティスト連盟所属の教会の分布と信者数 という図があり、この図を省略する場合について質問します。

本文は 例えば、次の(図5)は、「南部バプティスト連盟」全米でのネットワークを示しており、…。となっています。

図の番号、タイトルとともに第1カッコで囲むことができるということです。

例えば、次の(図5■■南部■■バプティスト■■連盟■■所属■■教会の■■分布と■■信者数((図は省略)))は■■「南部バプティスト連盟」全米での…。と省略までカッコで囲んで書いてよいということでしょうか。((…))は二重カッコです。

この図以外にも省略する図があり、出典も書かれています。

省略しないほかの図と同じように段落の切れ目などに枠線で囲み、その中に図の番号、タイトルを書き次行3マス目から(図は省略)とカッコ、または点訳挿入符で((図は省略))と書き、最後に出典も書くということでもよいのでしょうか。図を省略する場合は、出典も省略してよいのでしょうか。

【A】

省略した図は点訳書には無いわけですから、そのために長いスペースを割いて本文を途切れさせることのないように工夫します。

こうしなければならないという一つの方法があるわけではありません。読みやすく情報を伝えるように工夫することが大切になります。

例えば

1. 凡例で、《図は枠線内に囲んで書きますが、図の内容について本文に説明がある場合は省略しました》と書き、番号もタイトルも出典も省略することもできます。

その場合、本文に、《次の図5は～》とあり、「図5」という語を省くわけにはいかない場合だけ《次の図5(図省略)は～》と入れます。

2. 凡例で、《図を省略した場合もあります。その場合は、図の番号・タイトル・出典を各小項目の最後にまとめて書きました。》と断わり、5マス目からの見出しの最後に仕切りのための線を引き、図の番号順に、番号、タイトル、出典を書きます。

等の書き方があると思います。

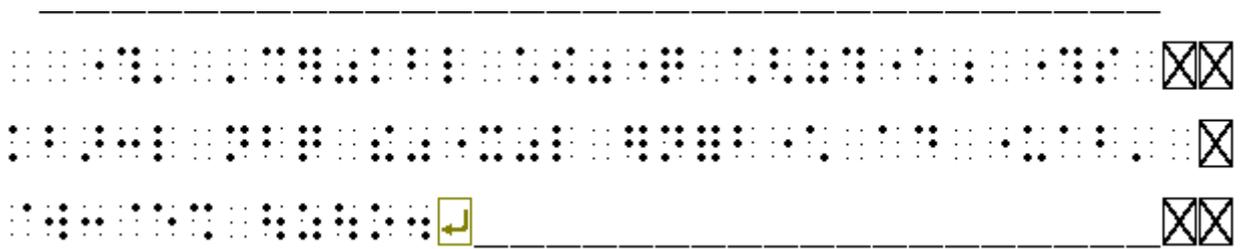
ご質問にある《次の(図5■■南部■■バプティスト■■連盟■■所属■■教会の■■分布と■■信者数((図は省略)))は～》のような書き方は、タイトルが重複していたり、二重カッコがあったりして、何もない図のために煩雑な文を読まなければならなくなりますので、避けた方がよい例となります。

いろいろな図があり、その原文によって必要度も異なってきますので、その都度工夫が必要になります。

例

1. 点訳書凡例で

図は枠線内に囲んで書きますが、図の内容について本文に説明がある場合は省略しました。



番号もタイトルも出典も省略することもできます。

本文で省くことができない場合、

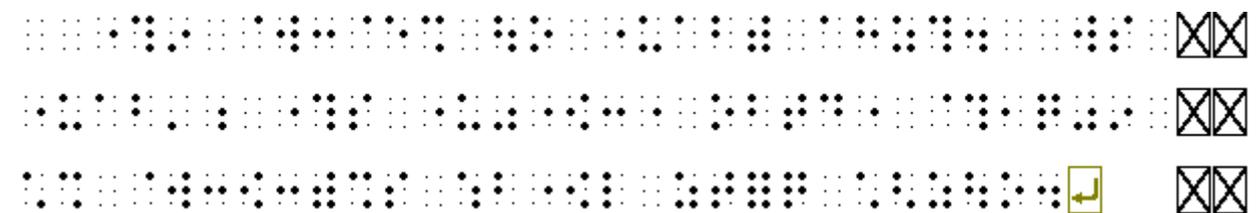
点訳挿入符で

《次の図5は～》 → 《次の図5(図省略)は～》といれる

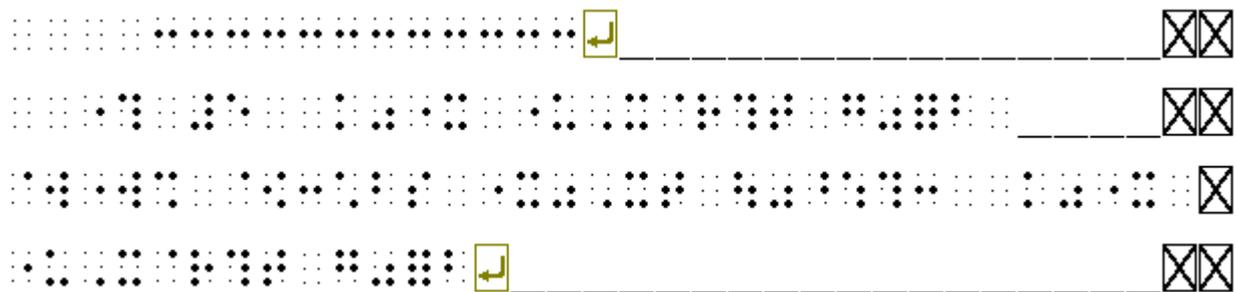


2. 点訳書凡例で

図を省略した場合もあります。その場合は、図の番号・タイトル・出典を各小項目の最後にまとめて書きました。



凡例で断ったあと、5マス目からの見出しの最後に仕切りのための線を引き、図の番号順に、番号、タイトル、出典を書きます。



『点訳フォーラム』より

37.p186「コラム 33」

集合写真の説明を入れるとき、原本に「左から二人目・・」という説明が書かれている場合は、原文通りで構わないでしょうか。

【A】
このことについて特にルールはありません。
本文を読む上で写真での位置関係がわからないと困るような場合は、原文通りに入れますが、なくても特に困らない場合は、省略しても構いません。
名前の後ろに(右)(中)(左)(後列右端)などとあったり、(左から順に)などは、点字では省略してよいと思います。

ただ、前後のキャプションとつながっていて省きにくい場合(省くと文の収まりが悪くなるなど)もありますので、そのときには、原文通りに書く場合もあります。



原本は以下のようになっています。

(例1) 城を背にして(右端がマイケルさん) (例2) 一番奥がリオちゃん

この写真説明を

(例1) 城を背にして(マイケルさん) (例2) リオちゃん

としてしまっても、文意が通じません。(説明として成り立たない)・

(省くと文の収まりが悪くなるなど)

なので、このケースでは、そのまま

(例1) 城を背にして(右端がマイケルさん) (例2) 一番奥がリオちゃん

50.p189 「コラム 34」

写真のキャプションに、人物の位置を表わす(右)・(中央)などのカッコ書きが出てきますが、これは省くことができますか。

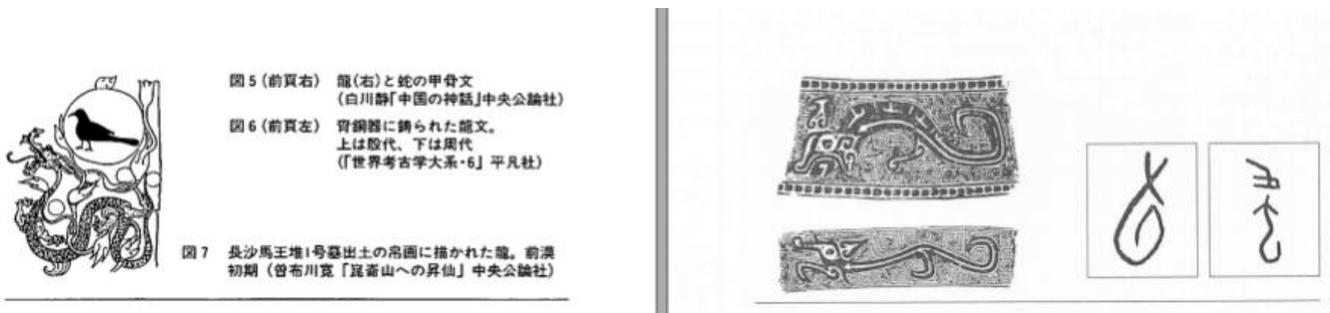
【A】
とくに規則はありませんが、特別な理由がない限り、省略して差し支えないと思います。

写真そのものの場所を示している「上下左右」などは省略してください。
 写真の中の位置を示している場合は、残しておかないと、文意が通じないことがあります。

Q. 写真説明などに書かれている 右、左、上、下 入力すべきですか？

A.写真説明の中にある、上下左右など位置を示す語句は、点字では削除してください。 触読者にとって、「上？ 右下？」と意味のない説明になり、余計な語句にしかならないようです。何の写真があるのかがわかれば、それで OK！

※本文中にある 上図 とか 次の表 のような場合は、点字ページ等に置き換えて位置をしめしてください。



..... ㄱ ㄱ

ズ 2 マイ

ズ 5 リュート ヘビノ コーコツブン|シラカワ
 シズカ 『チューゴクノ シンワ』 チューオー
 コーロンシャ|

ズ 6 セイドーキニ イラレタ リューモン。
 インダイト シューダイ『セカイ コーコガク タイケイ
 6』 ハイボンシャ|

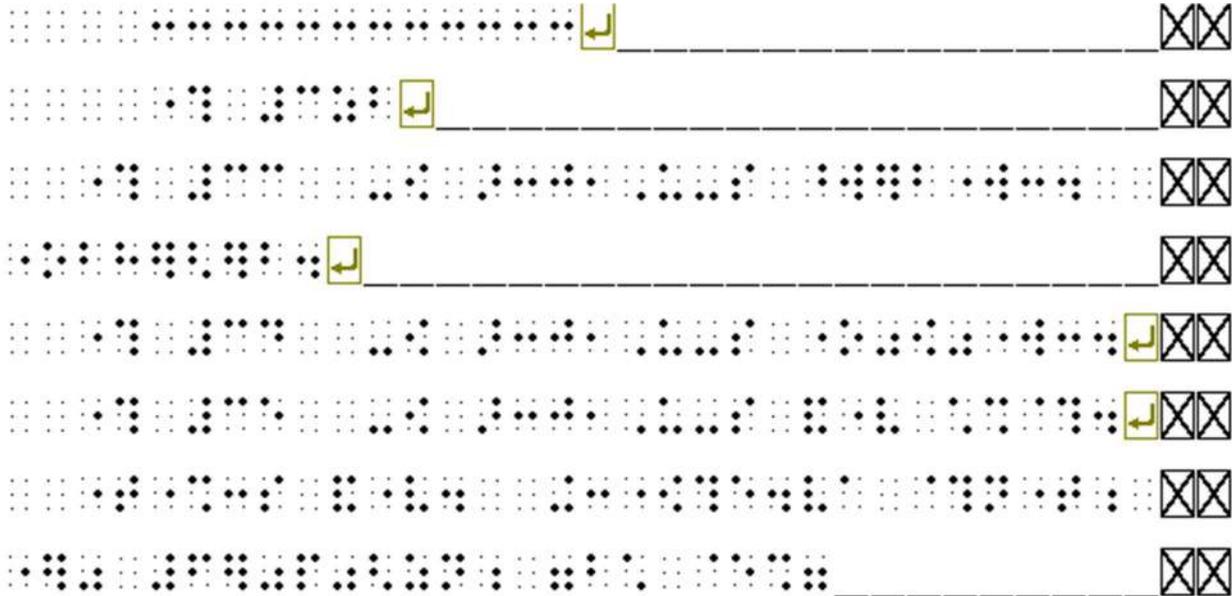
図33(右上) 「古ヨーロッパ」の女性像。大理石製。ペロポネソス、スパルタ出土、前6000年ごろ (M・ギンブタス「古ヨーロッパの神々」言叢社)

図34(右下) 「古ヨーロッパ」の男根像。テッサリア、ツァングリ出土、前6000年ごろ (同上書)

図35(下) 「古ヨーロッパ」の蛇各種。
 左上▶土偶の蛇。ユーゴスラヴィア出土、前6千年期末、
 右上▶皿を装飾する蛇。スロヴァキア、ドヴォリイ・ナド・ジタヴォラ墓塚出土、前5千年紀初頭、
 左下▶壺に描かれた蛇。ルーマニア、ビルシュ・ズローテ出土、前4千年紀前半、
 右下▶蛇女神の小像。クレタ、カト・イエラベタ出土、新石器時代 (同上書)

→ (拡大版)

(一部説明を省略しています)



ズ 3 マイ

ズ 33 コ ヨーロッパノ ジョセイゾー。
 ダイリセキセイ。

ズ 34 コ ヨーロッパノ ダンコンゾー。

ズ 35 コ ヨーロッパノ ヘビ カクシュ。

ドグーノ ヘビ。 ユーゴスラヴィア シュツド、
 ゼン 6 センネンキマツ、 (以下略)

『てびき Q&A』より

Q142 音訳の場合、写真が掲載されているとまずキャプションを読み、それで十分でないときは、注を入れて説明します。写真や挿し絵も大事な情報と思いますが、点訳の場合、写真が省略されるのはなぜでしょうか？

A:音訳では、雑誌の表紙の写真や記事に付いている写真なども、大切な情報として、目の代わりとなって説明しますが、点訳では、内容を読み進むのに必ずしも必要でない付加的な情報であれば省略することが原則になります。これは、耳から音として入ってくる情報と指で文字を読む情報の違いでもありますし、音訳・点訳の姿勢の違いもありますので、必ずしも同じような処理をする必要はなく、それぞれの特徴を生かして情報を伝えることが望ましいと言えます。p186「コラム 33」を参照してください。

【写真】



ニューヨークにあったクーパーズ・フィッシュ・アンド・チップス・ストア (1963 年)

【点字例】 キャプションのみ

.....
.....
.....
.....

【音訳例】

説明

店内の奥から出入り口の方に向けて撮影した写真です。

向かって左側にカウンターとカウンター席。客がいっぱい座っています。

カウンターの中では店員が働いています。中央の通路をはさみ、写真むかって右側にはテーブル席。こちら満席です。

出入口周辺には、立って順番を待つ人の姿も写っています。

説明終わり。

九九表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

